

研費・基盤研究A

「天文学との連携にもとづく考古学・考古史学研究法の構築」（19H00544）

七夕に関するフィールド調査

研究成果報告書〈令和二年度版〉

別冊：七夕データベース構築のための情報カード

令和三年一月

今野利秋

はじめに

1. この情報カードについて

報告書の本編にも記載したが、七夕行事の多くはその情報が分散している。記載されていても、特にその基準はない。ある一定のフォーマットで七夕行事の情報をまとめ、それを検索できるようなデータベース的なものがあると有益であると考え、七夕データベースとでもいうべきものの構築に向けて動き出した。手始めに、これまで筆者が取材をした事例を整理するところから始めた。データベース化をするためには、共通した情報が書かれているカードが必要である。これは、博物館の調査などにおける調査票や、収蔵カードに似たものである。類似するカードを参考として改良をしつつ、現在の形に落ち着いている。

2. 制作の基本的方針

掲載している情報は、なるべく最新のものを収録するように努めた。そのため、参考としたのは書籍や文献よりもホームページが多い。伝統行事は時代とともに姿を変えていくものであり、今後、データベース化を進めるにあたり、少しでも実情に近い情報がたどることができればと考えた次第である。極力、公式サイトや信頼できるサイトからの情報を収集した。得られた情報量により、カードごとの記述量もまちまちである。

掲載している写真はすべて、筆者が取材時に撮影したものである。掲載している情報と実情が合わないものも出てくるかもしれないが、取材当時の記録としての価値が出てくると考える。

掲載しているのは七夕行事や、付随するモノ、コトなどで、必ずしも行事とは限らない。結果、収録してあるのは50の事例となった。

一枚のカードには、一つの項目を掲載するようにしているが、同じ日に取材した複数の項目が記載されていることもある。これは、今後のデータベース化に使い勝手が良いように、関連する情報や項目もまとめて記載しているためである。また、同一の対象物であっても、取材年が異なる場合には、それぞれ独立したカードになっている。

3. 課題

今回は、データベース化につなげるための情報のカード化であり、必要な情報が揃っているのかも疑わしい。分類も、掲載した50事例を中心としているので、不十分である。掲載内容、キーワードの選び方や説明など内容の検討と改良が必要である。

七夕行事の事例は非常に多い。今回はただか50の事例であるので、今後、より多くの事例を増やしていく必要がある。

事例ごとに情報量がまちまちであり、情報量が多いものには、収まり切れていないものもある。どこまでの範囲を収録していくのか、という仕様の検討も必要である。

データ一覧 (1)

松本の七夕人形 (商店街)	2009年9月20日	長野県松本市
松本の七夕人形 (博物館)	2009年9月20日	長野県松本市
鶴岡八幡宮の七夕祭	2010年7月3日	神奈川県鎌倉市
湘南ひらつか七夕まつり	2010年7月3日	神奈川県平塚市
大宮八幡宮の乞巧羹飾り・乞巧潜り	2010年7月4日	東京都杉並区
浅草橋の七夕飾り販売	2010年7月10日	東京都台東区
なかはらニヶ領用水七夕祭り	2010年7月11日	神奈川県川崎市
根知のお七夕	2010年7月31日	新潟県糸魚川市
塩の道ちょうじゃの七夕人形	2010年7月31日	長野県大町市
高山市の七夕祭り	2010年8月6日	岐阜県高山市
松之木七夕	2010年8月6日	岐阜県高山市
尾山の七夕流し	2010年8月7日	富山県黒部市
経田七夕祭り	2010年8月7日	富山県魚津市
沖縄市一番街の七夕まつり	2011年7月8日	沖縄県沖縄市
いせさき七夕まつり	2011年7月17日	群馬県伊勢崎市
茂原七夕まつり	2011年7月23日	千葉県茂原市
高岡七夕まつり	2011年7月31日	富山県高岡市
滑川のネブタ流し	2011年7月31日	富山県滑川市
上田七夕まつり	2011年8月6日	長野県上田市
踏入七夕まつり「天之川」	2011年8月6日	長野県上田市
京の七夕	2011年8月12日	京都府京都市
荒木ねつおくり祭り	2012年7月21日	富山県南砺市
小川町七夕まつり	2012年7月29日	埼玉県小川町
橋本七夕まつり	2013年8月10日	神奈川県相模原市
福生七夕まつり	2013年8月10日	東京都福生市
阿佐谷七夕まつり	2013年8月10日	東京都杉並区
オルスイさん	2014年7月5日	山梨県中央市
一宮七夕まつり	2014年7月26日	愛知県一宮市
金津七夕	2014年8月2日	宮城県角田市
村上七夕まつり	2014年8月16日	新潟県村上市
仙台七夕まつり	2015年8月8日	宮城県仙台市
七夕綱 (八代)	2016年8月6日	熊本県八代市
七夕綱 (芦北)	2016年8月6日	熊本県芦北町
市来の七夕踊	2016年8月7日	鹿児島県いちき串木野市
角田館主・石川家の七夕飾り	2017年6月24日	宮城県角田市
七夕絵どうろうまつり	2017年8月5日	秋田県湯沢市
秋田竿燈まつり	2017年8月6日	秋田県秋田市

データ一覧（2）

狭山市入間川七夕まつり	2018年8月5日	埼玉県狭山市
西小磯の七夕	2018年8月18/19日	神奈川県大磯町
牽牛石	2019年7月6日	大阪府枚方市
星田妙見宮の七夕祭	2019年7月6日	大阪府交野市
機物神社の七夕まつり	2019年7月6日	大阪府交野市
高台寺 七夕会	2019年7月6日	京都府東山区
白峯神宮の精大明神祭「七夕祭」	2019年7月7日	京都府上京区
宝立七夕キリコ祭り	2019年8月3日	石川県珠洲市
動く七夕提灯行列	2019年8月10日	山形県東根市
南アルプス市の七夕人形	2020年7月5日	山梨県南アルプス市
まつもとの七夕	2020年7月11/12日	長野県松本市
釜井庵七夕飾り	2020年7月11日	長野県塩尻市
七夕という地名	2020年8月1日	宮城県丸森町
仙台七夕まつり（博物館展示）	2020年8月1/2日	宮城県仙台市

分類一覧

大項目	中項目	小項目	具体的項目（伴う行事など。民俗的行いが中心）
星祭り	宮廷系	乞巧奠	和歌吟詠
	寺社系	乞巧奠	神楽奉納、雅楽奉納、
		妙見信仰	
		宮廷文化	蹴鞠、七夕をどり
	武家系		
庶民系			
ムラ	人形系	成長祈願	
		着物祈願	
		祓い	飾りを川に流す、集落を練り歩く
		道切り	道に綱を渡す、飾りを川に流す、飾りを燃やす
		虫送り	松明を灯す、飾りを川に流す
		お守り	畑に立てる、家の北東に挿す、蔵に置く
	ねぶた系	ネブタ流し	人型をつくる、ネブタを流す、茅の輪くぐり
		屋台・山車	屋台を曳き回す、獅子舞いをする
		提灯行列	練り歩く
		灯籠	乱舞する
	井戸替え系		井戸をきれいにする、砂文字を作る
	七夕綱系	子孫繁栄	飾り物を吊るす
		道切り	川に渡す、道に渡す、飾りを吊るす
		祖霊迎え	川に渡す、道に渡す、飾りを吊るす
	夏祭り系		灯籠流し、飾りを燃やす
	虫送り系		田の神舟を流す、七夕飾りで稲穂をなでる、集落を練り歩く
	提灯行列系		集落を練り歩く
	踊り系		念仏踊り
	武家系		灯籠をかざる、提灯行列
	竹神輿系		集落を練り歩く、七夕踊り、集落を清める
	商店街	戦後復興	
夏季集客			
産業振興			
新形態	観光集客		
	新伝説		
その他	制作販売	人形	
		飾り	
	地域交流		飾りを流す
	ランドスケープ		
	博物館		

筆者が今回掲載した50事例に基づいての分類である。今後の分析によって、数が増えたり、統合するなどが生じてくる。

大分類は主として、成立過程の歴史的経緯の局面で設定した。

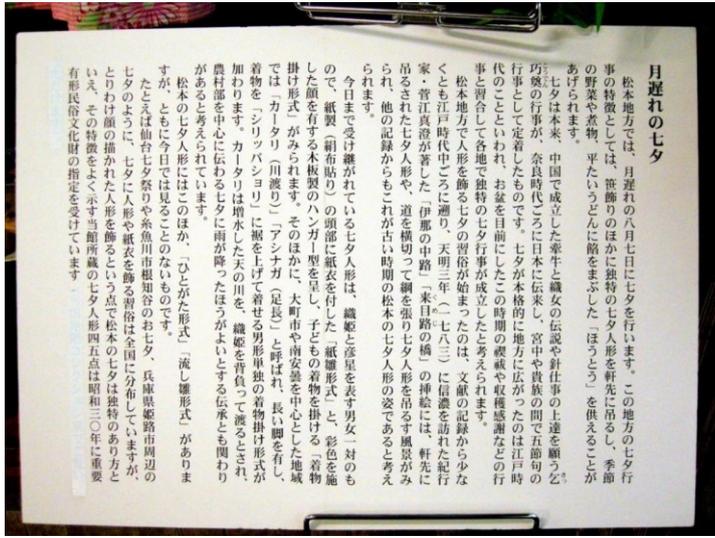
具体的項目は、細かく分ければもっと要素が挙げられる。今回は主たる特徴的なことにとどめてある。

その物事の大きく占める要素から中分類に分類してある。例えば、根知のお七夕は、七夕綱のように道切りの要素もあるが、他の七夕綱よりも人形の要素が多いので人形系の分類とした。七夕行事は明確に一つに分類ができるものではなく、複数の要素が絡んでいる物の方が多い。

七夕データベース構築のための情報カード

		追 記
名称	松本の七夕人形（商店街）	七夕人形のルーツは江戸の「貸し小袖」にあるとの考えがある。
都道府県名	長野県	
取材・開催地住所 1	松本市	松本は七夕人形の代表的土地であり、今でも市内には、松本独自の七夕人形を制作・販売する人形店が数店ある。
取材・開催地住所 2	中央 2 丁目 5 - 1	
取材・開催地住所 3	高砂通り	「水と人形のまち 高砂通り」は、人形店が軒を連ねる歴史ある通りで、七夕人形を販売する人形店がある。
開催日・期間	主に夏季	店頭でのディスプレイなど
取材日	2009年9月20日	
分類	その他、製作販売、人形	
内容	<p>松本市の「七夕人形」を制作する人形店では、現在でも夏になると七夕人形が店先に並ぶ。七夕人形の生産量は、戦前の5分の1とも、10分の1ともいわれるまでに縮小されている。月遅れの8月に行われる「まつもとの七夕」では、市内の店先などに七夕人形が飾られて、七夕の雰囲気を盛り上げる。昔は、多くの家々の軒先に子供の成長を願って人形が飾られていた。高砂通りにある村山人形店は、節句の人形として、ひな人形、五月人形、そして七夕人形を制作・販売している。人形形式、紙雛形式のラインナップがある。通りから少し離れたところにあるベラミ人形店みむらも、松本押絵雛や七夕人形を制作・販売する数少ない店である。着物かけ形式や、紙雛形式などの古い七夕人形も保存している。他に七夕人形を扱う店としては、松柏堂、人形の緑屋がある。</p>	
キーワード	長野県、松本市、七夕人形、月遅れ、高砂通り、村山人形店、ベラミ人形店みむら、松柏堂、人形の緑屋、着物掛け形式、紙雛形式、まつもとの七夕	
実例・記録	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>高砂通り</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>村山人形店の紙雛形式人形</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>同左の着物かけ形式人形</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="text-align: center;">  <p>ベラミ人形店の紙雛形式人形</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>同左</p> </div> </div>	
備考	<p>村山人形店のサイト：https://murayama-ningyo.jp/ ベラミ人形店のfacebook： https://www.facebook.com/%E3%83%99%E3%83%A9%E3%83%9F%E4%BA%BA%E5%BD%A2%E5%BA%97-belle-amie-doll-shop-2052242611459622/</p>	

七夕データベース構築のための情報カード

		追 記
名称	松本の七夕人形（博物館）	七夕人形のルーツは江戸の「貸し小袖」にあるとの考えがある。
都道府県名	長野県	
取材・開催地住所 1	松本市	松本は七夕人形の代表的土地であり、月遅れで七夕が行われる。七夕の期間以外では、博物館で七夕人形を見ることができる。
取材・開催地住所 2	丸の内4番1号	
取材・開催地住所 3	松本市立博物館	博物館の七夕人形コレクションは有名で、重要有形民俗文化財に指定されている。
開催日・期間	通年	松本市立博物館の常設展示
取材日	2009年9月20日	
分類	ムラ、人形、成長祈願・ケガレ払い	
内容	<p>松本の「七夕人形」の歴史は文献上では、天野信影（さだかげ）『塩尻』正徳4年（1714）、菅江真澄『委寧の中路』天明3年（1783）に見ることができる。古くは古代の人形代にさかのぼるといふ。①人がた形式、②着物掛け形式、③紙雛形式、④流し雛形式があり、人形の変遷を示している。②は着物を掛けるための人形として「もっという着物か返ってくるように」「子どもが丈夫に育つように」との願いを込める。①③④はケガレを祓う人形代の意味合いを持っているが、①④の二つは廃れてしまつて実態は不明である。松本市立博物館には、45点の人形のコレクションがある。</p>	
キーワード	長野県、松本市、七夕人形、月遅れ、七夕人形コレクション、天野信影（さだかげ）、『塩尻』、菅江真澄、『委寧の中路』、人がた形式、着物掛け形式、紙雛形式、流し雛形式、ケガレ	
事例・記録	 <p>松本市立博物館の七夕人形</p>  <p>松本地域の七夕のお供え物</p>	 <p>月遅れの七夕</p> <p>松本地方では、月遅れの八月七日に七夕を行います。この地方の七夕行事の特徴としては、世飾りのほかに独特の七夕人形を軒先に吊るし、季節の野菜や煮物、平たいどんに飯をまぶした「ほうとう」を供えることがあげられます。</p> <p>七夕は本来、中国で成立した牽牛と織女の伝説や針仕事の土産を願う乞巧祭の行事が、奈良時代ごろに日本に伝来し、宮中や貴族の間で五節句の行事として定着したものです。七夕が本格的に地方に広がったのは江戸時代のことといわれ、お盆を目前にしたこの時期の穢穢や収穫感謝などの行事と習合して各地で独特の七夕行事が成立したと考えられます。</p> <p>松本地方で人形を飾る七夕の習俗が始まったのは、文献の記録から少なくとも江戸時代中ごろに遡り、天明三年（一七八三）に信濃を訪れた紀行家・菅江真澄が著した『伊那の中路』「米目路の橋」の挿絵には、軒先に吊るされた七夕人形や、道を横切つて綱を張り七夕人形を吊るす風景がみられます。他の記録からもこれが古い時期の松本の七夕人形の姿であると考えられます。</p> <p>今日まで受け継がれている七夕人形は、織姫と彦星を表す男女一対のもので、紙製（絹布製）の頭部に紙衣を付した「紙雛形式」と、彩色を施した顔をもつ木製（竹製）のハンカチ型を呈し、子どもを着物を掛ける「着物掛け形式」がみられます。そのほかに、大町市や南安曇を中心とした地域では「カッター（川渡り）」「アシナガ（足長）」と呼ばれ、長い脚を有し、着物を「シラツパシヨリ」に裾を上げて着せる男形単独の着物掛け形式が加わります。カッターは増水した天の川を、織姫を背負つて渡るとされ、農村部を中心に伝わる七夕に雨が降つたほうがよいとする伝承とも関わりがあると考えられています。</p> <p>松本の七夕人形はこのほか、「ひとがた形式」「流し雛形式」がありますが、ともに今日では見ることのないものです。</p> <p>たとえば仙台七夕祭りや糸魚川市根知宮のお七夕、兵庫県姫路市周辺の七夕のように、七夕に人形や紙衣を飾る習俗は全国に分布していますが、とりわけ顔の描かれた人形を飾るといふ点で松本の七夕は独特のあり方といえ、その特徴をよく示す当館所蔵の七夕人形四五点は昭和三〇年に重要有形民俗文化財の指定を受けています。</p>
備考	松本市立博物館のサイト： http://matsu-haku.com/matsuhaku/	

七夕データベース構築のための情報カード

		追記
名称	鶴岡八幡宮の七夕祭	
都道府県名	神奈川県	
取材・開催地住所1	鎌倉市	
取材・開催地住所2	雪ノ下2丁目1-31	
取材・開催地住所3	鶴岡八幡宮	源頼義が京都の石清水八幡宮を勧請し、源氏の氏神として由比ヶ浜辺に祀ったことに始まる。その後、源頼朝が現在の地に遷し、鶴岡八幡宮の基礎が出来上がった。
開催日・期間	7月1日～7日	7日17時から、神楽の奉納などの「七夕祭」がある。
取材日	2010年7月3日	
分類	星祭り、寺社系、乞巧奠	
内容	<p>梶の葉を模した色紙と短冊型の絵馬が五色の紐に結ばれてご神前に奉納され、「くす玉」や「吹流し」などの七夕飾りが掲げられる。</p> <p>公式ホームページによると、「七夕は織姫と彦星が年に一度、7月7日の夜に天の河を渡って会うという伝承に、裁縫や芸芸の上達を祈る「乞巧奠（きっこうでん）」、そして日本古来の信仰が合わさった行事です。当宮の「七夕まつり」では、古式に因み、神と人、人と人の「むすび」を祈願し、琴や琵琶などの楽器を供え、芸が上達するよう祈念致しております。静かに風の流れる境内で七夕飾りを眺め、いにしへのむすびの祈りに思いを馳せ、更なる神様との縁を結んで頂ければ幸いです。」と、古式ゆかしい七夕に因んでいることが解説されている。</p>	
キーワード	神奈川県、鎌倉市、鶴岡八幡宮、七夕祭、梶の葉、五色の紐、くす玉、吹流し、七夕飾り、乞巧奠	
実例・記録	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>大鳥居の飾り</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>梶の葉を模した色紙や絵馬</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>同左の絵馬</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="text-align: center;">  <p>境内の飾りの様子</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>同</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>同</p> </div> </div>	
備考	鶴岡八幡宮のサイト： https://www.hachimangu.or.jp/activity/news/129	

七夕データベース構築のための情報カード

		追記
名称	湘南ひらつか七夕まつり	2020（令和2）年の第70回はコロナ禍で、開催史上初の中止となった。
都道府県名	神奈川県	
取材・開催地住所1	平塚市	JR平塚駅北口商店街を中心とする市内全域で行われる。
取材・開催地住所2	紅谷町	中でも中心となるのが紅谷町の湘南スターモールである。
取材・開催地住所3		
開催日・期間	7月第一週の金土日	
取材日	2010年7月3日	訪問時は、第60回。
分類	商店街、戦後復興	
内容	太平洋戦争の空襲により大打撃を受けた平塚市の戦後商業振興策として始められ、1951（昭和26）年7月に第一回が開催された。仙台の七夕まつりを参考として、日本一といわれる七夕飾りの豪華さに特色がある。中心街にはおよそ500本、メイン会場である「湘南スターモール」は絢爛豪華な飾りが通りを埋め尽くす。10mを超える大型飾りもあり、世相を反映して、人気のキャラクターやスポーツ選手などの流行りを取り入れた飾りもある。七夕飾りのコンクール、パレード等の各種催物が行われる。湘南ひらつか織り姫が七夕まつり期間中、パレードや市中訪問など様々な行事でまつりを一層盛り上げている。日本三大七夕祭り（仙台七夕まつり、安城七夕まつり）、関東三大七夕祭り（茂原七夕まつり、狭山市入間川七夕まつり）の一つに数えられる。戦後の七夕の先駆け的存在である。	
キーワード	神奈川県、平塚市、湘南ひらつか七夕まつり、湘南スターモール、戦後復興、商店街、日本三大七夕祭り、仙台七夕まつり、安城七夕まつり、関東三大七夕祭り、茂原七夕まつり、狭山市入間川七夕まつり	
実例・記録	  <p>第60回の様子</p>    	
備考	公式ホームページ： http://www.tanabata-hiratsuka.com/	

七夕データベース構築のための情報カード

		追記
名称	乞巧奠飾り・大宮八幡乞巧潜り	令和3年で、第23回目となる。
都道府県名	東京都	
取材・開催地住所1	杉並区	
取材・開催地住所2	大宮2-3-1	
取材・開催地住所3	大宮八幡宮	源頼義が、1063（康平6）年、京都の石清水八幡宮より勧進したのが始まり。かつては「多摩の大宮」あるいは「武蔵国八幡一之宮」と称され、今は「東京のへそ」と呼ばれている。
開催日・期間	7月1日～15日	7日に七夕の神遊び、期間中に雅楽の夕べが開かれる
取材日	2010年7月4日	取材当時は、第12回。
分類	星祭り、寺社系、乞巧奠	
内容	<p>「乞巧奠は古代中国の魔除けの風習と牽牛織女の伝説に由来、わが国ではこれに七夕の夕、乙女が水辺の棚の上の忌み小屋で機を織ってお盆の先触れの神を待つ棚機女（たなばたつめ）の信仰が結び付いた行事です。平安時代より詩歌・管弦、書道、裁縫など諸芸芸の上達を祈る行事として宮中を中心に広く定着。雅楽器、筆硯、五色布、七夕馬などを飾り、7月7日の朝には天皇が芋の葉についた朝露で墨をすり梶の葉に御歌を書かれ、これが短冊の始まりとなったといひます。7月7日夕には「七夕の神遊び（芸芸上達祈願祭）」が社殿で斎行され、神門前に設えられた梶の葉と七夕人形に五色の吹き流しや五色の布を垂した「平成の七夕・乞巧飾り」を左右と三度くぐる「乞巧潜り神事」が行われます。また期間中、雅楽の夕べもあり平安の雅びが再現されます。また神門には大きな笹竹飾りもつくられ、参拝者に願ひ事を短冊に書き付けて頂いております」。（公式HPより）</p>	
キーワード	東京都、杉並区、大宮八幡宮、乞巧奠飾り、大宮八幡乞巧潜り、平安時代、乞巧奠、棚機女（たなばたつめ）、詩歌、管弦、書道、裁縫、芸芸の上達、宮中、雅楽器、筆硯、五色布、七夕馬、梶の葉、短冊、七夕人形、五色の吹き流し、五色の布	
実例・記録	 <p>清涼殿の飾り</p>  <p>同左</p>  <p>たらいに浮かぶ梶の葉</p>  <p>乞巧潜り</p> 	
備考	公式サイト： https://www.ohmiya-hachimangu.or.jp/hachimangu/original	

七夕データベース構築のための情報カード

		追記
名称	浅草橋の七夕飾り販売	
都道府県名	東京都	
取材・開催地住所 1	台東区	
取材・開催地住所 2	浅草橋	奥州街道が通るこの地に浅草御門があり、神田川には浅草御門橋があった。その橋に因む。
取材・開催地住所 3	国道 6 号線沿い	地下鉄浅草橋駅から蔵前駅にかけて
開催日・期間	夏季	
取材日	2010年7月10日	
分類	その他、制作販売、飾り	
内容	浅草橋の国道 6 号線（奥州街道）沿いには、江戸時代の水運との関係から問屋が多い。交通や輸送の手段として水運が重視されていた江戸時代。浅草橋のそばには神田川が流れていて、多くの米や産物が集められるようになりお店が数多く並ぶようになった。服飾や装飾、ビーズ、人形の販売を行う店も多く、正月、盆、クリスマスなどの季節の飾りを扱う店もあり、時期になると店先には七夕飾りがディスプレイされる。吹き流し、くす玉、短冊、提灯、笹や竹など、一般的な七夕飾りが主である。七夕人形は見受けられない。	
キーワード	東京都、台東区、浅草橋、季節の飾り、七夕飾り、飾り販売	
実例・記録	   <p>界限の七夕飾り販売の様子</p> 	
備考	江戸時代の七夕飾りはどのように準備されたのか。やはりどこかで買い求めることができたのか、各家ごとに作っていたと思うが、興味のあるところである。	

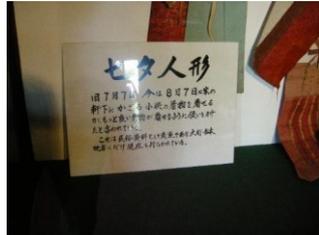
七夕データベース構築のための情報カード

		追記
名称	なかはらニヶ領用水七夕祭り	「ニヶ領用水中原桃の会」「同プロジェクト21」の共催
都道府県名	神奈川県	
取材・開催地住所1	川崎市	
取材・開催地住所2	中原区上小田中6の47	この住所の付近
取材・開催地住所3	ニヶ領用水の家内橋下流右岸	1611（慶長16）年に完成したニヶ領用水は農業・工業用水として川崎市の発展に寄与した多摩地区最古の用水路。
開催日・期間	7月上旬の日曜日	
取材日	2010年7月11日	訪問時は、第7回。
分類	その他、地域交流？	
内容	かつて、七夕で使われた笹飾りは、海や川へ流して神様に持ち去ってもらう風習があったが、多くは廃れている。ニヶ領用水では、「ニヶ領用水中原桃の会」「同プロジェクト21」が中心となって、人工用水路として川崎市の発展の歴史を支えてきたニヶ領用水と、桃並木の保存を願い、参加者の願い事とともに七夕飾りを用水に流している。飾りは、川下にて回収される。小魚の放流も行われる。祭りに先立つこと、数週間前には、川に捨てられたごみや、用水沿いのごみを回収する川さらいが行なわれる。	
キーワード	神奈川県、川崎市、中原区、ニヶ領用水、なかはらニヶ領用水七夕祭り、笹飾り、海へ流す、川へ流す、ニヶ領用水中原桃の会、ニヶ領用水中原桃の会プロジェクト21	
事例・記録	 <p>家内橋の飾り</p>  <p>祭りの受付</p>  <p>飾りを流しているところ</p>  <p>流された飾り</p> 	
備考		

七夕データベース構築のための情報カード

		追記
名称	根知のお七夕	
都道府県名	新潟県	
取材・開催地住所 1	糸魚川市	
取材・開催地住所 2	根知	
取材・開催地住所 3	数か所	根知谷入口の新道、根小屋、東中、上野、根知公民館、山口
開催日・期間	7月7日～8月7日	一か月間つるさされている。8月7日が、七夕流し。
取材日	2010年7月31日	
分類	ムラ、人形系、道切り・虫送り？	
内容	<p>わら縄に一对の花嫁（ヨメサン）と花婿（ムコサン）を中心に、コモリ（子守）、コシモト（腰元）、ニカツキ（荷担ぎ）、ポボ（見物人）、ヒョーチューなどを連ねた嫁入り行列を道路に渡してつるす。地区内の数か所（根知谷入口の新道、根小屋、東中、上野、根知公民館、山口）で行われている。7月7日につるされ、一か月後の8月7日に外されると、子どもたちが近くの根知川の河原で燃やす。取材当時は、地域のお年寄りが人形制作の担い手であった。「七夕と人形」（松本市立博物館編）によると、昭和40年ごろに一度途絶えたが、50年頃に復活。子どもたちが集落で6月くらいから紙などをもらい歩き、それをもとに七夕人形を作る。昔は「オタナバタサマイノー マタライネンゴザイノー カイモチカッテゴザイノゴザイノ」と歌いながら松明を灯して根知川に流したとある。こうした綱張りという七夕飾りは糸魚川市から上越市にかけての海岸線に見られ、他の地区では祇園祭（厄病除けであり、人形を伴う）と習合しているという。</p>	
キーワード	新潟県、糸魚川市、お七夕、七夕流し、根知、根知谷、新道、根小屋、東中、上野、根知公民館、山口、花嫁、花婿、嫁入り行列、根知川、オタナバタサマイノー マタライネンゴザイノー カイモチカッテゴザイノゴザイノ、綱張り、厄病除け、集落の入り口	
実例・記録	<div style="display: flex; flex-wrap: wrap;"> <div style="width: 33%; text-align: center;"> <p>新道 (根知谷入り口踏切前)</p> </div> <div style="width: 33%; text-align: center;"> <p>新道の人形</p> </div> <div style="width: 33%; text-align: center;"> <p>根小屋 (根小屋会館前)</p> </div> <div style="width: 33%; text-align: center;"> <p>上野</p> </div> <div style="width: 33%; text-align: center;"> <p>東中 (東中会館前、根知小近く)</p> </div> <div style="width: 33%; text-align: center;"> <p>山口</p> </div> </div>	
備考		

七夕データベース構築のための情報カード

		追記
名称	塩の道ちょうじゃの七夕人形	松本の七夕人形と同じ系統。
都道府県名	長野県	
取材・開催地住所1	大町市	
取材・開催地住所2	八日町2572	
取材・開催地住所3	塩の道ちょうじゃ（旧塩の道博物館）	旧平林家住宅。国登録有形文化財。式台玄関や座敷棟を備えた上層階級町家の典型で、防火壁「うだつ」など大町で初めて防火対策を施した土蔵造町家。
開催日・期間	通年	コロナ禍で、午前9時～午後3時（最終入館14時30分まで）
取材日	2010年7月31日	訪問時は「塩の道博物館」だった
分類	ムラ、人形系、成長祈願・着物祈願	
内容	糸魚川(新潟県)と松本(長野県)を結ぶ千国街道は、かつて糸魚川から松本に塩や海産物が運ばれたので、別名「塩の道」とも呼ばれる。その庄屋であった平林家には、当時の生活の道具などとともに、七夕人形も展示している。人形は、松本市で見られるのと形状は同じ。着物掛け形式、紙雛形式の織女と牽牛の人形や、木製の「カワゴシ」「カワゴシニンソク」もある。月遅れの8月7日に軒先に飾り、生まれた子供の健やかな成長を願う。親戚や祖父母などから贈られる。もっと良い着物を着られるように、という願いを込めることもある。	
キーワード	長野県、大町市、塩の道ちょうじゃ、旧塩の道博物館、七夕人形、千国街道、塩の道、松本市、糸魚川市、平林家、カワゴシ、カワゴシニンソク、月遅れ、8月7日、軒先、子供、成長	
実例・記録	 <p>建物外観（取材時は塩の道博物館）</p>  <p>展示されている七夕人形</p>   <p>着物かけ形式の人形</p>  <p>男性がカワゴシの人形</p> 	
備考	松本市、大町市、糸魚川市と、千国街道に沿った土地に七夕人形（長野県ないと糸魚川では形状が異なる）が点在しているのは単なる偶然ではなく、交易によって文化が運ばれている可能性がある。と筆者は考える。	

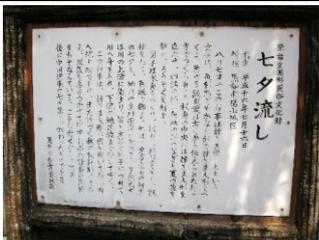
七夕データベース構築のための情報カード

		追記
名称	高山市の七夕祭り	
都道府県名	岐阜県	
取材・開催地住所 1	高山市	
取材・開催地住所 2		
取材・開催地住所 3	古い町並み	JR高山駅から広小路通りを東へ5分程度、宮川を越えた辺り一帯の歴史的景観のある古い町並みが中心。
開催日・期間	8月5日～8月7日	
取材日	2010年8月6日	
分類	商店街	
内容	飛騨高山では年中行事は旧暦で行われ、七夕は月遅れの8月7日である。市内各所に七夕飾りが施され、各種イベントが行われる。他の商店街の七夕に比べると絢爛豪華というよりは、古い町並みに似合った風情ある飾り付けである。	
キーワード	岐阜県、高山市、古い町並み、七夕祭り	
実例・記録	 <p>飾りを販売する店</p>  <p>古い町並みの七夕飾り</p>  <p>江名子川に渡された飾り</p>  <p>飾り付けにそれほど派手さはない</p> 	
備考		

七夕データベース構築のための情報カード

		追記	
名称	松之木七夕	高山市指定の無形民俗文化財（平成6年11月4日指定）	
都道府県名	岐阜県		
取材・開催地住所1	高山市		
取材・開催地住所2	松之木町	市の中心部から4キロほど。	
取材・開催地住所3	七夕岩	上流に向かって右が男岩、左が女岩。七夕岩はこの二つの総称である。	
開催日・期間	8月の第一土曜日	昔は8月6日の夜であったが、曜日固定に変更された。	
取材日	2010年8月6日／7日	訪問時はまだ6日の夜に行われていた。綱は一か月後くらいまで張られる。	
分類	ムラ、七夕綱系 子孫繁栄		
内容	<p>松之木の七夕は、町内にある七夕岩で行なわれる行事を中心としている。七夕岩は、大八賀川の両岸に立つ、男岩（おとこいわ）と女岩（おんないわ）の2つの大岩からなる。毎年8月6日（古くは7月6日）に、男岩と女岩の両岩に大しめ縄を張り渡し、飾り提灯や、その年男の子の生れた家では藁（わら）の馬を、女の子の生れた家では糸巻きを吊し、牽牛織女（けんぎゅうおりひめ）の2星をまつり、五穀豊穡（ごこくほうじょう）を祈る。この行事は元禄時代以前から行なわれていたといわれ、『飛州志（ひしゅうし）』や『飛騨国中案内』『斐太後風土記（ひだごぶどぎ）』の中でも紹介されており、古くから遠近に知られていた。国道を横断して張られ、危険なために一時中断したこともあったが、当局との折衝の末、復活した。歴史もあり、他では見られない貴重な民俗行事である。</p> <p>（高山市公式サイトから）</p>		
キーワード	岐阜県、高山市、松之木、松之木七夕、七夕岩、男岩、女岩、七夕岩は、大八賀川、大しめ縄、飾り提灯、藁の馬、糸巻き、元禄時代、『飛州志』、『飛騨国中案内』、『斐太後風土記』		
実例・記録	 <p>男岩</p>	 <p>女岩</p>	 <p>糸車や藁馬、行灯が下げられる</p>
	 <p>20時頃から大しめ縄張り開始</p>	 <p>完全に張られた様子</p>	 <p>翌朝の様子</p>
備考	<p>高山市公式サイト：https://www.city.takayama.lg.jp/kurashi/1000021/1000119/1000847/1000915/1000953.html 張られた綱は昔は自然に切れるまで張られていた。今では子孫繁栄の願いの意味合いの方が強いらしい。</p>		

七夕データベース構築のための情報カード

		追記
名称	尾山の七夕流し	国指定の無形民俗文化財（2018年3月8日指定）
都道府県名	富山県	
取材・開催地住所 1	黒部市	未取材ではあるが、市内には同じような七夕流しである、中陣のニブ流しがある。7月31日の夕方に行われる。こちらは人形を伴わず、麦藁を縄でたばねて作った舟に、色紙や提灯・ロウソク等で飾り付けをして、川の中を引っ張っていく。 http://fusentan.net/modules/tradition/index.php?content_id=1
取材・開催地住所 2	尾山	尾山コミュニティセンターに集合する
取材・開催地住所 3	湧水川	
開催日・期間	8月7日	
取材日	2010年8月7日	
分類	ムラ、人形系、祓い	
内容	<p>本件は、富山県黒部市の尾山地区に伝承される人形流しを伴う七夕の行事である。子供たちが色鮮やかな姉様人形をはじめ、船や行灯等を作り、川に入って押し流すもので、心身の穢れや災厄を祓う行事として伝えられている。七夕流しは、小中学生を中心に、8月7日の夜、地区を流れる湧水川で行われる。夕方になると、子供たちがそれぞれの家で製作した人形や船を尾山コミュニティセンターに持ち寄って並べ、また、大きな姉様人形を曳いて、笛や太鼓の演奏とともに集落内を練り歩く。その後、子供たちは上流に移動し、21時頃からロウソクを灯した姉様人形や船を持って川に入り、両岸に立てられた笹の七夕飾りの中を下流まで押し流す。（※解説は選択当時のものをもとにしています） （文化遺産オンライン から）</p>	
キーワード	富山県、黒部市、尾山、尾山の七夕流し、人形流し、姉様人形、アネサマ、川に入って押し流す、心身の穢れ、災厄を祓う、ケガレ、祓い、湧水川、尾山コミュニティセンター、中陣のニブ流し	
実例・記録	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>布施谷の伝統行事案内</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>コミュニティセンター前の行事説明</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>湧水川</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="text-align: center;">  <p>七夕流しの様子</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>アネサマと投網（キリコ）で飾られた舟</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>大アネサマ</p> </div> </div>	
備考	<p>文化遺産オンライン https://bunka.nii.ac.jp/heritages/detail/425513 布施谷活性化推進協議会が運営母体となっている地元文化発信サイトにも詳しい http://fusentan.net/modules/tradition/index.php?content_id=2</p>	

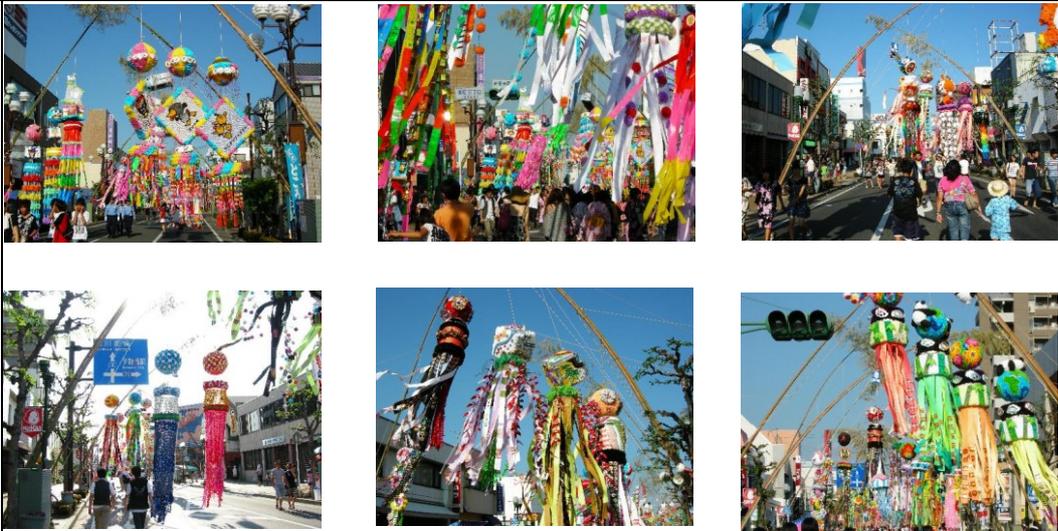
七夕データベース構築のための情報カード

		追記
名称	経田七夕祭り	2019年で67回目とのこと。（北日本新聞）
都道府県名	富山県	
取材・開催地住所 1	魚津市	
取材・開催地住所 2	経田地区	
取材・開催地住所 3	経田漁港付近広場など	港内の海上でも花火大会や電飾の舟の行進などが行われる。
開催日・期間	8月7日	
取材日	2010年8月7日	
分類	ムラ、夏祭り	
内容	8月第一週の金曜から日曜日まで開催されるじゃんとこい魚津祭りの最終日に位置付けられる。ただ、この祭りの開催日に関係なく、単体で行われてきた時代から、七夕祭りは7日の日にち固定となっている。経田地区の住民参加による夏祭りで、カラオケ大会や地域の子どもの盆踊りや楽隊の鼓笛パレードなどがある。夜には、海上花火大会も行われる。電球で飾られた漁船が海上を色どり、船からは灯籠流しが行われる。海難事故等で亡くなったかたの合同追悼式もあり、お盆の行事としての側面も見受けられる。会場の一角では、地区の家々から持ち寄られて役目を終えた七夕飾りが集められて燃やされる。それは、まるでどんど焼きを思わせる。	
キーワード	富山県、魚津市、経田地区、経田漁港、経田七夕祭り、じゃんとこい魚津祭り、漁船パレード、灯籠流し、海上七夕	
実例・記録	 <p>電飾された漁船</p>  <p>漁船に積み込まれる灯籠</p>  <p>通りを七夕飾りが彩る</p>  <p>家々の飾りを持ち寄る</p>  <p>燃やされる七夕飾り</p>  <p>漁船の海上パレードと灯籠流し</p>	
備考	飾られた漁船が海を行くのは、陸前高田の海上七夕（筆者未見）を思わせる。海難事故の追悼や灯籠流しが行われることから、精霊船（しょうらいぶね）に通じているのかもしれない。	

七夕データベース構築のための情報カード

		追記
名称	沖縄市一番街の七夕まつり	2019年で44回目。2020年はコロナ禍で中止。
都道府県名	沖縄県	
取材・開催地住所1	沖縄市	
取材・開催地住所2	中央1丁目界限	
取材・開催地住所3	一番街商店街アーケード内	1972年の本土復帰の3年後、1975年に沖縄で初めてアーケード化した商店街として知られている。
開催日・期間	7月第一週の週末とその前後	
取材日	2011年7月8日	
分類	商店街、夏季集客	
内容	1976（昭和51年）に、夏の集客のイベントの一つとして開催されたのが始まり。浴衣コンテスト、流しそうめんなどが行われ、期間最終日には、各商店毎に出した飾りを審査する装飾コンテストの表彰式がある。取材した年は東日本大震災が起きたばかりで、復興へのメッセージを募り仙台七夕へ送られることになっていた。旧暦に行われる伝統行事が多い沖縄では、イベントとして新暦で行われる。	
キーワード	沖縄県、沖縄市、一番街商店街アーケード、一番街の七夕まつり	
実例・記録	 <p>東日本大震災の年を感じさせる</p>  <p>アーケード街を各商店が出展した七夕飾りが彩る</p>   <p>多くの願いが書かれた短冊</p>  <p>まるでのれんのように低い飾り</p>  <p>紅型が沖縄らしさを感じさせる</p>	
備考		

七夕データベース構築のための情報カード

		追 記
名称	いせさき七夕まつり	1950（昭和25）年に始まる。2020年はコロナ禍で中止。
都道府県名	群馬県	
取材・開催地住所 1	伊勢崎市	
取材・開催地住所 2	本町 周辺	
取材・開催地住所 3	本町通り など	本町通りがメイン会場。
開催日・期間	7月の第二か第三土、日曜日	
取材日	2011年7月17日	訪問時は第62回。
分類	商店街、戦後復興	
内容	<p>「伊勢崎市史」には、「商店街が一体となって行う行事として、昭和25年7月に景気直し納涼大売り出しが20日間にわたって実施された。内容は盛りだくさんで、伊香保温泉招待、市長賞を競う七夕装飾競技会や織り姫祭芸能大会などが催され、これらの行事はその後年中行事として定着することになる」とあり、典型的な戦後復興の一環として各地の商店街で始まった形態の七夕イベントである。クラフト体験、七夕飾りづくり、フラダンス、鼓笛隊演奏などのイベントが買いさされる。</p>	
キーワード	群馬県、伊勢崎市、本町通り、いせさき七夕まつり、納涼大売り出し、戦後復興、商店街の七夕	
実例・記録		
備考	<p>伊勢崎市の公式ページ https://www.city.isesaki.lg.jp/kanko/kanko/event/3360.html</p>	

七夕データベース構築のための情報カード

		追記
名称	茂原七夕まつり	2021（令和3）年で67回目を迎える。2020年はコロナ禍で中止。関東三大七夕祭りの一つ。
都道府県名	千葉県	
取材・開催地住所1	茂原市	
取材・開催地住所2		
取材・開催地住所3	茂原駅前周辺商店街	
開催日・期間	7月下旬の金土日	
取材日	2011年7月23日	訪問時は第57回。
分類	商店街、産業振興	
内容	<p>1955（昭和30）年に、7月7日の八坂神社の例祭にあわせて、氏子である地元商店街が産業振興策の一環として開いたのが始まりである。今では800本ほどの竹飾りが駅前を中心とした商店街に飾られる。もばら阿波おどり、YOSAKOIおどり、子ども神輿などが盛大に行われる。関東三大七夕まつり（「狭山市入間川七夕まつり」「湘南ひらつか七夕まつり」）に数えられる。市内を流れる豊田川の酒盛橋－茂原橋間の1.3キロは、「天の川」の愛称がある。</p> <p>また、2015（平成27）年からは2月上旬に「もばら冬の七夕」というイベントが開催されるようになった。イルミネーションや移動プラネタリウムなどが行われる。2021（令和3）年に第七回はコロナ禍で中止となった。こちらは、京の七夕のように、新しいタイプの観光用七夕である。</p>	
キーワード	千葉県、茂原市、茂原七夕まつり、もばら阿波おどり、YOSAKOIおどり、関東三大七夕祭り、狭山市入間川七夕まつり、湘南ひらつか七夕まつり、豊田川、天の川、もばら冬の七夕	
実例・記録	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>豊田川の愛称は「天の川」</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>豊田川を彩る吹き流し</p> </div> <div style="text-align: center;">  </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="text-align: center;">  <p>商店街の七夕飾り</p> </div> <div style="text-align: center;">  </div> <div style="text-align: center;">  <p>行列に使われる鯛ちょうちん</p> </div> </div>	
備考	<p>七夕まつり公式 http://www.mobara-tanabata.com/index.html もばら冬の七夕まつり公式 https://fuyu.mobara-tanabata.com/2020/</p>	

七夕データベース構築のための情報カード

		追 記
名称	高岡七夕まつり	2020年はコロナ禍で中止。
都道府県名	富山県	
取材・開催地住所 1	高岡市	
取材・開催地住所 2		
取材・開催地住所 3	中心市街地一帯	
開催日・期間	8月1日～8日	
取材日	2011年7月31日	祭り開催の前日に立ち寄った。
分類	店街、夏季集客	
内容	高岡地方では江戸時代より七夕まつりが行われていた記録があり、昭和初期には七夕飾りに特に長男が生まれた家で子供の成長を願い、親戚が集まり盛大に行われていた。あわせて技術や芸能の上達を願った短冊を大きな竹に結び、提灯や吹流しなどの飾りをつけて大きな川へ流していた。やがて、環境への配慮から川に流されることはなくなった。1968（昭和43）年に、中心商店街の意向で真夏商戦にあわせて本来の8月7日に行われるようになり、企業・商店街主体のイベントとなっていた。高さ約20mのジャンボ七夕や、大小1,000本の七夕が街中を彩り、のど自慢や民謡踊り、鼓笛隊の演奏などが行われている。最終日には射水神社にて、短冊のお焚き上げが行われる。	
キーワード	富山県、高岡市、高岡七夕まつり、長男、成長を願う、ジャンボ七夕、射水神社、短冊お焚き上げ	
実例・記録	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  </div> <div style="text-align: center;">  <p>市内の商店街のあちこちを飾りが彩る</p> </div> <div style="text-align: center;">  </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="text-align: center;">  </div> <div style="text-align: center;">  <p>高岡大仏と七夕飾り</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>多くのイベントが催される</p> </div> </div>	
備考	カルチャー日本 https://culture-nippon.go.jp/ja/events/00001c000000000000200000800637e	

七夕データベース構築のための情報カード

		追 記
名称	滑川のネブタ流し	国の重要無形民俗文化財（1999（平成11）年12月21日指定）
都道府県名	富山県	
取材・開催地住所 1	滑川市	
取材・開催地住所 2	中川原410	
取材・開催地住所 3	中川原海岸（和田の浜海岸）	ほたるいかミュージアムの裏手
開催日・期間	7月31日	
取材日	2011年7月31日	
分類	ムラ、ねぶた系、ネブタ流し	
内容	<p>「ネブタ」と呼ばれる4 mほどの、菰や竹などで作ったたいまつを作り、そこに紙やキュウリ、ナスなどで作った人型を飾り付ける。町内を練り歩いた後、浜に運ばれて18時30分に火をつけられて海へと流される。夏の眠気や疫病、穢れを海に流し去り、無病息災を祈願する禊ぎの行事であるといわれている。ネブタの行事としては日本海側の南限である。同じ日に、同様に暑気払いをして、禊をする行事である「茅の輪くぐり」が、会場から南西に1 kmほど行った櫛原（いちばら）神社の旧社地で行われる。</p>	
キーワード	富山県、滑川市、中川原海岸、和田の浜海岸、滑川のネブタ流し、ネブタ、たいまつ、人型、眠気、疫病、穢れ、眠り流し、無病息災、禊ぎ、日本海側の南限、暑気払い、茅の輪くぐり、櫛原神社	
実例・記録	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>キュウリやナスで作られた人型</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>出番を待つ「ネブタ」</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="text-align: center;">  <p>火をつけられて沖に並ぶ「ネブタ」</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>徐々に燃えていき、燃え尽きると岸へと戻される</p> </div> <div style="text-align: center;">  </div> </div>	
備考	滑川のネブタ流し https://toyama-bunkaisan.jp/search/2587/ （とやまの文化遺産） 櫛原神社 https://toyama-bunkaisan.jp/search/2516/ （とやまの文化遺産）	

七夕データベース構築のための情報カード

		追記
名称	上田七夕まつり	2021（令和3）年に63回を迎える。2020年はコロナ禍で中止。
都道府県名	長野県	
取材・開催地住所1	上田市	
取材・開催地住所2	中央2丁目	
取材・開催地住所3	海野町商店街通り	
開催日・期間	8月6日～8日	
取材日	2011年8月6日	
分類	商店街	
内容	東西300mの海野町商店街通りに約40の参加店が制作した高さ15mほどの七夕飾りが並ぶ。七夕飾りのコンテスト、人気のキャラクターショーやビアホールなどのイベントが行われる。	
キーワード	長野県、上田市、海野町商店街通り、上田七夕まつり	
実例・記録	   <p>多くの夏祭りの一つ</p> <p>各店が工夫を凝らして作った飾り</p>   	
備考	信州上田観光ベース http://www.ueda-trenavi.jp/db/2011/03/61.html	

七夕データベース構築のための情報カード

		追 記
名称	踏入七夕まつり「天之川」	
都道府県名	長野県	
取材・開催地住所 1	上田市	
取材・開催地住所 2	踏入 2 丁目	
取材・開催地住所 3	旧北国街道沿い	街道の北側に井戸小屋がある。
開催日・期間	8月6日	
取材日	2011年8月6日	
分類	ムラ、井戸替え系	
内容	1995（平成7）年に復活した、昭和25年前後まで毎年行われてきた七夕行事。千曲川から運んできた砂で、「天之川」の砂文字を旧北国街道の北側にある古くからの井戸の前に作り、その上に水神様にささげる線香が灯される。この行事が行われる前に、井戸の内外や水神様を洗ってきれいにする井戸替えが行われている。まずは、16時くらいから木枠とコテを使いながら、子どもたちや古老が砂で文字を手際よく書いていく。一時間くらいで文字が完成すると、いったんここで行事は小休止。19時、夕暮れになって再び子どもたちが集合すると七夕まつりが始まる。砂文字に火のついた線香をさしていくと、辺りが夕闇に包まれる中、線香の明かりが「天之川」の形に浮かび上がる。石沢誠司氏の『踏入七夕まつり「天の川」』によると、昔は地区の中や、他の地区の数か所でも同様の七夕まつりが行われていたらしい。同じ日に市内で商店街の七夕と地域の七夕が行われている様子は、七夕の多様性を感じさせる。	
キーワード	長野県、上田市、踏入地区、旧北国街道、踏入七夕まつり「天之川」、千曲川、砂文字、井戸替え、水神様	
実例・記録	 <p>千曲川の砂に水で混ぜて団子を作る</p>  <p>砂団子を並べる木枠</p>  <p>出来上がった天之川の砂文字</p>  <p>飾られた古井戸と砂文字</p>  <p>線香を刺していく</p>  <p>夕闇に光の文字が浮かび上がる</p>	
備考	踏入七夕まつり「天の川」：石沢 誠司 https://blog.goo.ne.jp/shizechemg/e/a0d743c070a696fdc4776d7bed671f0e	

七夕データベース構築のための情報カード

		追記
名称	京の七夕	2019（平成31）年で10回目。2020年はコロナ禍で願い事を募集するなどweb開催だった。
都道府県名	京都府	
取材・開催地住所 1	京都市	2019年からは宮津市エリア（宮津市文殊。天橋立の南側）が加わった。
取材・開催地住所 2	市内各所	
取材・開催地住所 3	4会場	堀川エリア、鴨川エリア、北野紙屋川エリア、梅小路エリア。訪問した初期のころは、堀川と鴨川の2エリアで開催していた。
開催日・期間	8月上旬	会場によって期間が異なっている。宮津は8月一か月間。
取材日	2011年8月12日	訪問時は第2回。
分類	新形態、観光集客	
内容	<p>「祈り」「願い」をテーマとして、様々な催しが行われる。堀川エリアでは、竹で組まれたアーチにLEDで表された天の川が輝き、友禅流しを光で演出する。二条城のライトアップやプロジェクションマッピングが行われる。鴨川エリアでは、LEDの入った竹で編んだかごが夕暮れ時に河原を幻想的に浮かび上がらせる。北野紙屋川エリアでは、御土居のライトアップなどが行われる。梅小路エリアでは、梅小路公園をイルミネーションが飾る。2019年から加わった宮津市エリアでは、天橋立の砂浜のライトアップなどが行われる。全体として、光を使ったオブジェや演出が多いので、夕暮れ時、暑さが和らいだ京都の町をそぞろ歩くのにちょうどよい。観光用イベントとしての、新たな七夕のあり方の先駆けである。</p>	
キーワード	京都府、京都市、宮津市、京の七夕、堀川エリア、鴨川エリア、北野紙屋川エリア、梅小路エリア、祈り、願い、観光七夕	
実例・記録	 <p>堀川エリア：かがり火やアートが飾られ、LEDの天の川のアーチが輝く</p> <p>鴨川エリア：京友禅のオブジェや、夕暮れとともにかごの中の明かりが幻想的な雰囲気となる</p>	
備考		

七夕データベース構築のための情報カード

		追記	
名称	荒木ねつおくり祭り	2020年はコロナ禍で中止	
都道府県名	富山県		
取材・開催地住所 1	南砺市	市内の福光地区では、商店街の七夕として昭和に始まった「福光ねつおくり七夕祭り」が7月最終週末に行われている。	
取材・開催地住所 2	荒木地区		
取材・開催地住所 3			
開催日・期間	夏の土用の三日目	夏の土用の三番、土用三郎	
取材日	2012年7月21日		
分類	ムラ、虫送り		
内容	<p>稲の熱であるイモチ病や病害虫を取り払い、五穀豊穡や豊作祈願をする。1688（元禄元）年に始まったと伝えられ、その頃からの形態がそのままに伝えられている貴重な民俗行事。地区の小学生が中心となって、「じじ、ばば」と呼ばれるわら人形を乗せた田の神舟（紙で作った張り子の舟）を担いで荒木地区内の田んぼをすべて回る。「おくるばーい おくるばーい、ねつおくるばーい」と太鼓の音に合わせて唄いながら、五色の短冊で飾った笹竹で田んぼの稲穂の先を払う。最後に、田の神舟や笹飾りを、福吉橋から小矢部川へ投げ込んで終了する。川へ流すのは、禊や祓いの行為として、ケガレや病害虫を流し去る意味がある。</p>		
キーワード	<p>富山県、南砺市、荒木地区、荒木ねつおくり祭り、イモチ病、病害虫、五穀豊穡、豊作祈願、じじ、ばば、田の神舟、荒木丸、おくるばーい おくるばーい、ねつおくるばーい、小矢部川、禊、祓い、ケガレ、流す</p>		
実例・記録	 <p>荒木公民館に集う子どもたち</p>	 <p>田の神舟「荒木丸」</p>	 <p>じじ</p>
	 <p>ばば</p>	 <p>太鼓をたたきながら集落を巡る</p>	 <p>稲穂の先を七夕飾りでなでる</p>
備考	<p>旅々なんと https://www.tabi-nanto.jp/archives/2252</p>		

七夕データベース構築のための情報カード

		追記
名称	小川町七夕まつり	2020年の第72回目はコロナ禍で中止
都道府県名	埼玉県	
取材・開催地住所 1	小川町	
取材・開催地住所 2		
取材・開催地住所 3	小川町駅付近	
開催日・期間	7月の最終土日	
取材日	2012年7月29日	訪問時は第64回。
分類	商店街、産業振興	
内容	1949（昭和24）年から続く祭り。小川町は特産の小川和紙で知られていたが、洋紙の普及に押されて和紙の生産が落ち込み、廃業する業者が相次いだ。そこで「和紙の町小川」の復活を願い、小川和紙を使用した竹飾りを作り、七夕まつりを開催することにした。祭りは成功し、以来、小川和紙をふんだんに使った竹飾りの中を、歴史ある屋台の引き回し、小川祭ばやし、七夕おどりなどの列が続く大規模な祭りとなっていった。初日の夜には花火大会が行われる。同時に小川和紙まつりも開かれ、紙すき体験などができる。	
キーワード	埼玉県、小川町、小川町七夕まつり、小川和紙	
実例・記録	   <p>小川和紙で作られた様々な飾りが、駅周辺の商店街や古い町並みを飾る</p>    <p>和紙を使った絵も描かれている 時流（当時はスカイツリーオープン）の飾りも 伝統の屋台</p>	
備考	小川町観光協会 http://www.kankou-ogawa.com/su_e003.html	

七夕データベース構築のための情報カード

		追記
名称	橋本七夕まつり	2020年の第69回目はコロナ禍で中止
都道府県名	神奈川県	
取材・開催地住所 1	相模原市	
取材・開催地住所 2	緑区橋本	
取材・開催地住所 3	橋本七夕通り ほか	
開催日・期間	8月の第一金土日	
取材日	2013年8月10日	訪問時は第62回。
分類	商店街、戦後復興	
内容	1952（昭和27）年に、地域経済復興を目的として橋本商店会加盟店約50軒が母体となって開催。入間や福生、平塚などの先発地域の取り組みを参考とした。七夕飾りコンテスト、鼓笛隊パレード、各種ステージショー、盆踊り大会などが開催される。	
キーワード	神奈川県、相模原市、橋本、橋本七夕まつり	
実例・記録	   <p>会場の通りに飾られた七夕飾り</p>   <p>橋本駅前にも飾りが まつりを告げるポスター</p>	
備考	公式サイト https://www.hashimototanabata.info/	

七夕データベース構築のための情報カード

		追記	
名称	福生七夕まつり	2020年の第70回目はコロナ禍で中止	
都道府県名	東京都		
取材・開催地住所 1	福生市		
取材・開催地住所 2			
取材・開催地住所 3	駅前周辺	駅前通り、銀座通り、栄通り など	
開催日・期間	8月7日近辺の木金土日		
取材日	2013年8月10日	訪問時は第63回。	
分類	商店街、産業振興		
内容	1951（昭和26）年、中央商栄会で商店街振興のために始まった。当時の福生町職員が、仙台の七夕を見て感動したことが、開催につながっているという。商店街の各店が作った飾りが彩り、飾り付けのコンテストが開催される。市民模擬店、写真コンクール、ポスターコンテストなどが開催される。平塚と同じ年に始まり、東京の商店街系の七夕祭りとしては、最も古い。		
キーワード	東京都、福生市、福生七夕まつり		
実例・記録	 <p>駅のホームにも飾り付けが</p>	 <p>歓迎のポスター</p>	 <p>会場となる商店街</p>
	 <p>華やかな飾り付け</p>	 <p>マンホールも七夕の街ならではの</p>	 <p>タッケー（竹飾りの妖精）</p>
備考	公式サイト https://www.fussa-tanabata.com/		

七夕データベース構築のための情報カード

		追 記
名称	阿佐谷七夕まつり	2020年の第67回目はコロナ禍で中止
都道府県名	東京都	
取材・開催地住所 1	杉並区	
取材・開催地住所 2	阿佐谷南	
取材・開催地住所 3	阿佐谷パールセンター	地元のアーケード商店街
開催日・期間	8月7日中心の五日間	期間に土日が含まれない場合は、前後の土日を含んで変則的になる場合がある
取材日	2013年8月10日	訪問時は第60回。
分類	商店街、夏季集客	
内容	1954（昭和29）年に、暑い夏の盛りに商店街に賑わいをもたらすため、各地の夏祭りを視察。結果、仙台や平塚の七夕を意識しての七夕祭りを開催することになった。初回から、吹き流しやくす玉を真似しつつも各店が手作りする、阿佐谷七夕独特のはりぼて飾りが特徴的であった。毎年、その時々流行を盛り込んで趣向を凝らしたはりぼてが作られる。	
キーワード	東京都、杉並区、阿佐谷、阿佐谷パールセンター、阿佐谷七夕まつり、はりぼて	
実例・記録	 <p>駅前にも飾り付けが</p>  <p>パールセンター入り口</p>  <p>吹き流しやくす玉</p>    <p>阿佐谷七夕まつり独特なスタイルのはりぼて</p>	
備考	阿佐谷パールセンターのサイト http://www.asagaya.or.jp/tanabata/tanabata.html	

七夕データベース構築のための情報カード

		追記
名称	オルスイさん	行事そのものではなく研究者による講演会
都道府県名	山梨県	
取材・開催地住所 1	中央市	
取材・開催地住所 2	大鳥居1619-1	
取材・開催地住所 3	中央市豊富郷土資料館	以降、2016年までは七夕人形作りをイベントとして行っていたのが確認できる
開催日・期間	7月7日ころ	お守りとしては翌年まで
取材日	2014年7月5日	
分類	ムラ、人形系、お守り	
内容	<p>信清由美子氏による講演会の内容から。</p> <p>山梨（特に笛吹川流域）の七夕まつりは、紙で作られた男女一对の星神様を飾る風習があります。人形の裾（すそ）や袂（たもと）に切込みを入れて下に長く下げられ、そのひらひらと風になびく様子はとても幻想的な風景です。そして、山梨の七夕人形の特徴は、七夕祭りが終わった後も、お守りになるという点です。畑にもって行って立てて置いたり、家の北東の決まった場所に挿して置いたり、人形のみを取り外して紙に包み『七夕』と書いてお蔵の入り口に釘で貼りつけたりして、畑では虫が来ないように、家に置く場合は泥棒除けとして次の年の七夕祭りまで、七夕人形をお守りとしていたのだといいます。「お留守居さん（オルスイさん）」という呼び名もここから来ているのだと思われます。</p>	
キーワード	山梨県、中央市、中央市豊富郷土資料館、信清由美子、笛吹川流域、星神様、七夕人形、お守り、畑、家の北東、虫が来ない、泥棒除け、お留守居さん、オルスイさん	
実例・記録	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>講演会の案内</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>七夕まつりの告知</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>人形制作ワークショップ</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="text-align: center;">  </div> <div style="text-align: center;">  </div> <div style="text-align: center;">  </div> </div> <p style="text-align: center;">郷土資料館雄職員により制作された七夕人形が飾られた七夕飾り</p>	
備考	<p>信清由美子氏の研究成果はここに詳しい</p> <p>https://blog.goo.ne.jp/shizechemg/e/f011df44f33759a29b245538b0414500</p>	

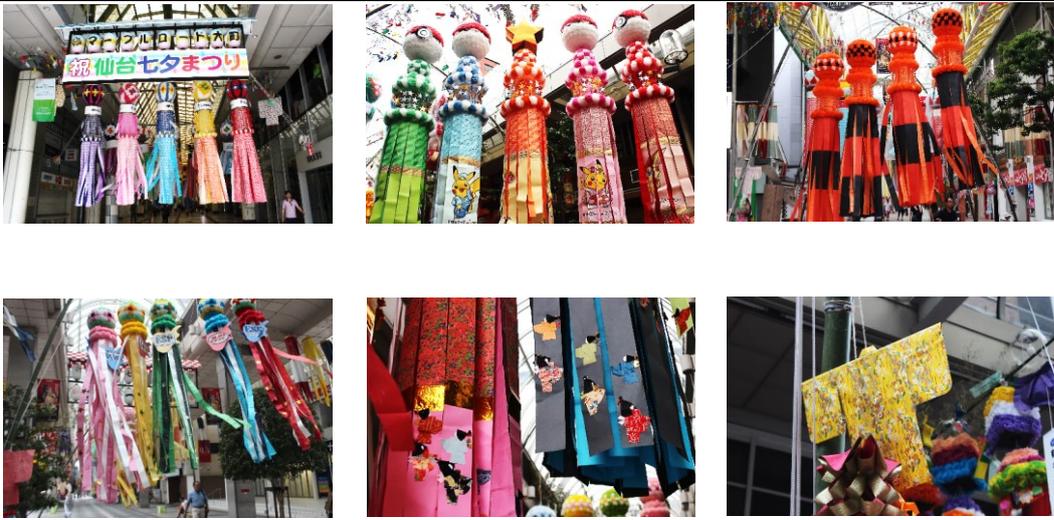
七夕データベース構築のための情報カード

		追記
名称	一宮七夕まつり	2020年の第65回はコロナ禍で中止
都道府県名	愛知県	
取材・開催地住所 1	一宮市	
取材・開催地住所 2	本町	
取材・開催地住所 3	本町アーケード街がメイン	ほかに銀座通り、真清田神社など
開催日・期間	7月最終の木金土日	2021年は7月15-18日を予定（オリンピック開催予定で前倒し）
取材日	2014年7月26日	訪問時は第59回。
分類	商店街、産業振興	
内容	1956（昭和31）年、繊維産業の振興と一宮の発展を願い、織物に縁の深い牽牛と織姫に因んで始まった。一宮市は古くから織物業が盛んである。地域の人々の信仰を集める真清田神社の祭神「天火明命（あめのほあかりのみこと）」の母神「萬幡豊秋津師比売命（よろずはたとよあきつしひめのみこと）」は、織物の神様であり、そのご加護で一宮市の織物業が発達したといわれていることに由来する。真清田神社の境内には萬幡豊秋津師比売命を祀る服織神社があり、ミス七夕が期間中にお参りに来る。音楽隊パレード、ミス七夕・ミス織物オープンカーパレード、盆踊り大会などが開催される。	
キーワード	愛知県、一宮市、一宮七夕まつり、本町アーケード街、繊維産業、織物業、真清田神社（ますみだじんじゃ）、天火明命（あめのほあかりのみこと）、萬幡豊秋津師比売命（よろずはたとよあきつしひめのみこと）、服織神社	
実例・記録	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>本町アーケード街の七夕飾り</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>銀座通りの七夕飾り</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="text-align: center;">  <p>一宮駅前の七夕飾り</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>真清田神社</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>服織神社</p> </div> </div>	
備考	公式サイト http://www.138ss.com/tanabata_bunner/index_tanabata.html	

七夕データベース構築のための情報カード

		追 記
名称	金津七夕	2020年はコロナ禍で中止。国の選択無形民俗文化財（2013（平成25）年1月18日選択）
都道府県名	宮城県	
取材・開催地住所 1	角田市	
取材・開催地住所 2	尾山	
取材・開催地住所 3	字北田41-2～字上大門35	金津地区。江戸時代に宿場町として栄えた旧街道筋にて行われる。
開催日・期間	8月第一週の土曜日	
取材日	2014年8月2日	
分類	ムラ、提灯行列	
内容	<p>370年の伝統を誇る金津七夕は宮城県指定民俗文化財風俗慣習となっており、県下では他に類例のない貴重な民俗行事である。6才から15才までの児童（以前は男子のみ）が町ごとに子供組を組織し、それぞれの組の中心となる宿の前に「カラオクリ」と呼ばれる色紙・短冊・吹流し・提灯などをつけた竹飾りを立て、夕方6時頃から子供組ごとに隊列を組み、提灯をかざして大将の拍子木に合わせて全員で新古今集に収められている短歌の一首「七夕のと渡る舟の 梶の葉にいく秋かきつ 露の玉づさ」を唱和しながら、金津の町を何度も練り歩く。</p> <p>七夕の竹飾りを「カラオクリ」とよんでいるのは「空送り」であり、「本送り」である提灯行列に対するの呼称であることから、この七夕は「星祭り」的行事ではなく、むしろ邪霊を鎮送する送り行事であるとされている。（角田市観光情報サイトより）</p>	
キーワード	宮城県、角田市、金津地区、金津七夕、子供組、竹飾り、新古今集、七夕のと渡る舟の 梶の葉にいく秋かきつ 露の玉づさ、カラオクリ、空送り、本送り、災厄祓い、豊作祈願、虫除け、成長祈願	
実例・記録	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>出し物のステージ</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>子どもたちが持ち歩く提灯</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>街中を彩る七夕飾り</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="text-align: center;">  <p>発祥の地の石碑</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>飾りに火がともる</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>提灯行列が旧宿場町を練り歩く</p> </div> </div>	
備考	お盆の前に災厄を祓い、豊作祈願、虫除け、成長を祈願する願いが込められる。 角田市観光情報 https://www.city.kakuda.lg.jp/site/kokokakuda/1062.html	

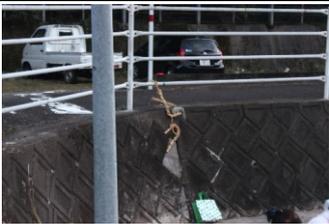
七夕データベース構築のための情報カード

		追記
名称	仙台七夕まつり	2020年はコロナ禍で中止。
都道府県名	宮城県	
取材・開催地住所 1	仙台市	
取材・開催地住所 2		
取材・開催地住所 3	市中心部および周辺の地域商店街	仙台駅前から中央通り、一番町通りのアーケード街が笹飾りのメイン。勾当台公園市民広場では各種イベントを開催。
開催日・期間	8月6日～8日	
取材日	2015年8月8日	
分類	商店街、産業振興	
内容	伊達政宗の時代までさかのぼる。かつては、旧暦7月6日の夕方から笹をかざって姫星と彦星を祭って手習・手芸の上達を願った。笹飾りは7日朝、広瀬川に流された。そして、水を浴び、洗い物をする七日浴（なぬかび）や七日盆を行った。本来は「みそぎ」をして盆祭に入る準備をする日であった。明治になって行事は勢いをなくしていくが、1938（昭和2）年に、不景気を吹き飛ばそうと商人たちが七夕飾りを復活。太平洋戦争でほとんど行われなくなった時期を乗り越えて、1946（昭和21）年には飾りが復活し、現在のような東北の夏祭りを代表する祭りとなった。同時期の、青森ねぶた祭りや秋田の竿燈祭りが神を送る行事なのに対して、仙台では田の神様への祭りである。笹飾りの七つ飾りが特徴的。短冊（学問や書道の上達）、紙衣（病気や災難の厄除け、裁縫の上達）、折鶴（家内安全と健康長寿）、巾着（商売繁盛）、投網（豊漁・豊作）、屑籠（清潔と儉約）、吹き流し（織姫の織糸）といった意味がある。	
キーワード	宮城県、仙台市、仙台七夕まつり、中央通り、一番町通り、伊達政宗、広瀬川、七日浴（なぬかび）、七日盆、襦、みそぎ、田の神様、七つ飾り、短冊、紙衣、折鶴、巾着、投網、屑籠、吹き流し	
実例・記録		
備考	公式サイト： https://www.sendaitanabata.com/ 商店街の七夕としての各地の見本的存在であるが、どのようにして数百年の長きにわたって、行事の形態が変わってきたのかをたどることもできるのは、まさに歴史が持つ重みと、記述や資料が豊富なためであろう。	

七夕データベース構築のための情報カード

		追記
名称	七夕綱（八代）	国選択無形民俗文化財（2015（平成27）年3月2日指定）
都道府県名	熊本県	
取材・開催地住所 1	八代市	
取材・開催地住所 2	坂本町中谷	
取材・開催地住所 3	木々子地区	
開催日・期間	8月6日	綱の撤去は8月末あたり
取材日	2016年8月6日	
分類	ムラ、七夕綱系、道切り・祖霊迎え	
内容	八代・芦北地方に伝わる旧暦の七夕に行われる伝統行事。稲ワラで編んだ長い綱を天の川にみたてた川の上に張り、そこにワラ製の彦星や織姫などの人形や、わらじ、タコ、卵、鶴、亀などさまざまな形のわら細工の飾りを綱につるし、集落を流れる中谷川の上に張り渡す。疾病や悪霊を集落に入れない、お盆に先祖の霊を迎えるといった意味が伝わっている。いつ頃始まったのかは定かではないが、太平洋戦争中に一度絶えたものを、1975（昭和50）年頃に老人会の人たちにより復活。現在は、2015（平成27）年に立ち上げた保存会のメンバーが中心となって行っている。	
キーワード	熊本県、八代市、坂元町、木々子地区、七夕綱、わら、綱、彦星、織姫、人形、わらじ、タコ、卵、鶴、亀、中谷川、疾病、悪霊、集落に入れない、先祖の霊を迎える	
実例・記録	   <p>集落までは谷あい道のゆく</p> <p>渡された綱と中谷川</p>   	
備考	高山市松之木の七夕岩に渡す綱を思いださずにはいられなかった。岐阜県と熊本県という遠く離れた地域に残っている行事だが、これらの間には残されていないのだろうか、という思いがわく。	

七夕データベース構築のための情報カード

		追記
名称	七夕綱（芦北）	国選択無形民俗文化財（2015（平成27）年3月2日指定）
都道府県名	熊本県	
取材・開催地住所 1	芦北町	
取材・開催地住所 2	大字白木	
取材・開催地住所 3	下白木地区	綱作りなどは下白木公民館にて行う。 他に、祝坂（市野瀬）、岩屋川内（大岩）、上原地区
開催日・期間	8月6日	
取材日	2016年8月6日	
分類	ムラ、七夕綱系、道切り・祖霊迎え	
内容	八代・芦北地方に伝わる旧暦の七夕に行われる伝統行事。集落の入り口や川の上に綱を張り、わら製の人形や履物、農具などのわら細工を吊るす。彦星と織姫がつなを伝って会うという星祭りとしての伝承のほか、「疫病が集落に侵入することを防ぐ」「盆の精霊（先祖の霊）が綱を渡ってやってくる」という伝承がある。地区の住民が公民館に集まり、各家から持ち寄ったワラで約30メートルの綱を作り、ワラで作った人形、草履、馬、牛にはかせる靴などをぶら下げて、集落の入り口から天月川(あまつぎがわ)をまたいで綱を張る。8月16日頃まで張られている。	
キーワード	熊本県、芦北町、下白木地区、七夕綱、集落の入り口、川の上、人形、履物、農具、星祭り、疫病を防ぐ、先祖の霊、天月川(あまつぎがわ)	
実例・記録	 <p>18時頃から公民館前で綱を作る</p>  <p>七夕の文字の飾り</p>  <p>タコの飾り</p>    <p>20時頃から町内に綱を張り始める</p>	
備考	綱を渡す様子は高山市松之木の七夕岩に通じる。この時に名刺を頂いた芦北町役場の方に、後日、調査結果『八代・芦北の七夕綱』を送っていただいた。	

七夕データベース構築のための情報カード

		追 記	
名称	市来の七夕踊	1981年に国の重要無形民俗文化財に指定。2020年の330回目をもって休止が予定されていたが、コロナ禍で中止。休止は2021年まで延期されている。	
都道府県名	鹿児島県		
取材・開催地住所 1	いちき串木野市		
取材・開催地住所 2	大里地区		
取材・開催地住所 3	踊りは地区内四カ所にて	堀之内の庭、鶴ヶ丘八幡神社、門前河原、弘山の踊り場	
開催日・期間	8月5～11日までの日曜		
取材日	2016年8月7日	訪問時は326回目！であった	
分類	ムラ、踊り系		
内容	豊臣秀吉の朝鮮出兵での島津兵の活躍に人々が大喜びし、祝賀会が催された。太鼓踊り・棒踊りなどを会場で踊り踊ったと伝えられている。その時踊られた太鼓踊りが七夕踊の太鼓踊りの原形と言われており、内容は念仏踊りである。8時に中福良集落の堀之内の庭で太鼓踊りが躍られ、一行は地区内を移動。鹿、虎、牛、鶴の作り物（つくいもん）。琉球王行列、大名行列、薙刀行列の行列物（ぎょうれつもん）。そして太鼓踊りの行列が地区を練り歩く。10時からは大里川沿いの門前河原で、12時頃まで七夕踊りが行われる。16時頃にも弘山の踊り場で踊られる。大規模な祭りであるが、祭りの担い手である青年団の人数が減り続けており、2019年に2020年をもって休止の判断が下された。七夕踊保存会によると、「現構成での七夕踊をこれ以上維持、継続し続けることは困難との判断から今年と来年二ヶ年で一応締めくくり、その後は当面の間休止することと致しました」という。重要文化財である七夕の伝統行事が消えようとしている。		
キーワード	鹿児島県、いちき串木野市、大里地区、堀之内の庭、鶴ヶ丘八幡神社、門前河原、弘山の踊り場、市来の七夕踊り、朝鮮出兵、島津兵、太鼓踊り、棒踊り、念仏踊り、鹿、虎、牛、鶴、作り物（つくいもん）、琉球王行列、大名行列、薙刀行列、行列物（ぎょうれつもん）、太鼓踊り		
実例・記録	 <p>堀之内の庭での太鼓踊り</p>	 <p>牛</p>	 <p>鶴</p>
	 <p>島津兵による虎狩り</p>	 <p>踊り手は役者（やっさ）と呼ばれる</p>	 <p>大里川に掲げられたのぼり</p>
備考	公式サイト http://r.goope.jp/tanabata 期せずして、今回の情報整理にて休止が判明した。コロナ禍でその休止は2021年へと伸びたが、伝統行事の継続が危うくなってきている事例と言える。独特の七夕行事が休止となるのは大変残念である。		

七夕データベース構築のための情報カード

		追記
名称	角田館主・石川家の七夕飾り	当時の角田館主石川家の七夕飾りを再現している。
都道府県名	宮城県	
取材・開催地住所1	角田市	
取材・開催地住所2	大里地区	
取材・開催地住所3	角田郷土資料館	明治・大正時代の地主が住んでいた屋敷を活用している。
開催日・期間	6月末から7月頭	夏の企画展示。ここ数年の開催状況は不明。
取材日	2017年6月24日	
分類	星祭り、武家系	
内容	毎年、旧暦の7月7日には城内で七夕に際して様々な儀式や飾りがされていた。石川家の笹飾りは紙で梶の葉、式紙、うちわ、ひょうたん、短冊を作り、そこに歌や願い事を書き込み、奥御書院石段の真ん中に杭を打って立てられた笹竹に結わえ付けられた。竹は、8日の暁七つ時に片づけられ、阿武隈川に流されたとされている。また、「楽器のお飾り」、「衣装のお飾り」、「星御祭棚」という独特の飾りもされていた。「楽器のお飾り」では太鼓、楽器、横笛、琴・三味線が飾られていた。「衣装のお飾り」はお姫様の装束である。「星御祭棚」は、上の段に香炉、白焼の水鉢、温麺、二段目に御神酒、御洗米砂鉢盛（ごせんまいさはちもり）、茄子、三段目に桃、からどり（サトイモの茎を干したもの）、ささげ、越瓜（しろうり・白瓜）、塾瓜（ほそじ・マクワウリ）を飾り、高ぼんぼりの御灯明二脚が飾られた。これらの品々には、五穀豊穡とお姫様が健やかに成長する願いが込められている。	
キーワード	宮城県、角田市、角田郷土資料館、角田館主・石川家の七夕飾り、笹飾りは紙で梶の葉、式紙、うちわ、ひょうたん、短冊、阿武隈川に流された、楽器のお飾り、衣装のお飾り、星御祭棚、五穀豊穡、お姫様が健やかに成長する願い	
実例・記録	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>企画展の案内</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>石川家のお飾り</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>星御祭棚</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: center; margin-top: 10px;">  <p>再現された石川家の七夕飾り</p> </div>	
備考	GO! 角田 https://gogokakuda.blog.ss-blog.jp/2017-07-04 を参考	

七夕データベース構築のための情報カード

		追記
名称	七夕絵どうろうまつり	2020年はコロナ禍で中止。
都道府県名	秋田県	
取材・開催地住所 1	湯沢市	
取材・開催地住所 2		
取材・開催地住所 3	中心商店街	柳町、本町、サンロード、ジークブルガー通り など
開催日・期間	8月5日～7日	
取材日	2017年8月5日	
分類	ムラ、武家系	
内容	1702（元禄15）年、秋田藩佐竹南家七代目義安公に京都の公卿鷹司家からお輿入れされた姫君が、京都への郷愁やるかたなき想いを五色の短冊に託し、青竹に飾りつけたのが始まりといわれている。300年以上の伝統を持つ。家々では竹に五色の短冊や吹流し等をつり下げて飾るほか、浮世絵美人が描かれた大・小数百個の絵どうろうが通りに下げられる。夕暮れになると、絵どうろうに一斉に明かりが灯される。七夕コンクール、七夕ちょうちん行列、佐竹南家・京都奥様の七夕御観覧などが催される。	
キーワード	秋田県、湯沢市、七夕絵どうろうまつり、秋田藩佐竹南家七代目義安公、京都の公卿鷹司家、姫君、浮世絵美人、絵どうろう	
実例・記録	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>昼間の絵どうろう</p> </div> <div style="text-align: center;">  </div> <div style="text-align: center;">  <p>レトロな街並みに笹飾りが似合う</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="text-align: center;">  </div> <div style="text-align: center;">  </div> <div style="text-align: center;">  </div> </div> <p style="text-align: center;">絵どうろうに明かりが灯されると、華やかな雰囲気となる</p>	
備考	特設サイト（2019年のもの） https://tanabata2019.city-yuzawa.com/index.html	

七夕データベース構築のための情報カード

		追記	
名称	秋田竿燈まつり	2020年はコロナ禍で中止。1980（昭和55）年1月28日、国の重要無形民俗文化財に指定された。	
都道府県名	秋田県		
取材・開催地住所 1	秋田市		
取材・開催地住所 2			
取材・開催地住所 3	竿燈大通り	他、市役所会場、駅前会場、大町イベント広場など	
開催日・期間	8月3日～6日		
取材日	2017年8月6日		
分類	ムラ、ねぶた系、提灯行列		
内容	<p>真夏の病魔や邪気を払う、ねぶり流し行事として宝暦年間にはその原型となるものが出来ていたという。現在残っている最も古い文献は、1789（寛政元）津村涼庵の紀行文「雪の降る道」で、陰暦の7月6日に行われたねぶりながしが紹介されている。このときにはすでに秋田独自の風俗として伝えられており、長い竿を十文字に構えそれに灯火を数多く付けて太鼓を打ちながら町を練り歩き、その灯火は二丁、三丁にも及ぶといった竿燈の原型が記されている。元々、藩政以前から秋田市周辺に伝えられているねぶり流しは、笹竹や合欵木に願い事を書いた短冊を飾り町を練り歩き最後に川に流すものであった。それが宝暦年間の蠟燭の普及、お盆に門前に掲げた高灯籠などが組み合わされて独自の行事に発展したものとされている。ねぶり流しは五穀豊穡や技芸上達を願って翌7月7日に行われる七夕とともに、陰暦7月15日のお盆を迎えるための一連の行事でもあり、厄よけ、みそぎ、五穀豊穡などを願う現在の竿燈の形が徐々にできあがっていった。</p>		
キーワード	秋田県、秋田市、秋田竿燈まつり、ねぶり流し、津村涼庵、『雪の降る道』、笹竹、合欵木、短冊、川に流す、高灯籠、五穀豊穡、技芸上達、厄よけ、みそぎ、五穀豊穡、『秋田風俗問状答』、『出羽の道わけ』		
実例・記録	 <p>明かりを灯し準備をする</p>	 <p>続々と会場入りする</p>	 <p>提灯には七夕の文字が</p>
	 <p>大きいものでは50kgにもなる竿燈</p>	 <p>持ち手の妙技も見ものの一つ</p>	
備考	解説は公式サイト http://www.kantou.gr.jp/index.htm より引用		

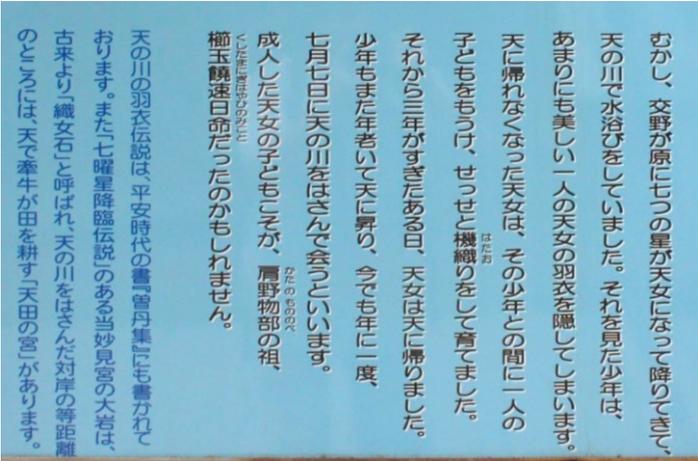
七夕データベース構築のための情報カード

		追記	
名称	狭山市入間川七夕まつり	2020年は東京オリンピックのゴルフ競技が開催予定であったため、警備が難しいとの判断から中止。関東三大七夕祭り（湘南ひらつか七夕まつり、茂原七夕まつり）の一つ。	
都道府県名	埼玉県		
取材・開催地住所 1	狭山市		
取材・開催地住所 2			
取材・開催地住所 3	狭山市駅西口・市民広場から七夕通り商店街		
開催日・期間	8月の第一土曜、日曜		
取材日	2018年8月6日		
分類	商店街、夏季集客		
内容	江戸時代の中ごろから行われていたと言われており、笹や竹の枝などに短冊や千代紙などを下げて、五穀豊穡や無病息災を願う家々の軒下などに飾っていた。夏の日照りによる干ばつが起こらないよう、雨乞い祭りとしての意味もあり、8月の6日か7日のいずれかに夕立などの雨が降ることがあった。短冊には里芋の葉にたまった夜露で墨をすり、子ども達は「どうか字がうまくなりますように七夕さま」などと書き、大人はお供え物をして今年も農作物がたくさんとれるようにお祈りをするなどした。飾りは神事の結界を張る意味に習って、竹飾りの先端に魔よけの飾りをつける。祭りが終わると竹飾りは入間川にすべて流され、流し雛と同じ意味があるという。昭和に入り、商店や問屋が夏の最も暑いこの時期に、客への日ごろの感謝を込めて夕涼みの会を行うため、竹飾りを大きくして日陰を作り、縁台を並べて湯茶のもてなしをしたのが今日の七夕まつりの始まり。平塚など各地から飾りの作り方などを学ぶために多くの人々が訪れたという。		
キーワード	埼玉県、狭山市、入間川、狭山市入間川七夕まつり、関東三大七夕祭り、湘南ひらつか七夕まつり、茂原七夕まつり、短冊、千代紙、五穀豊穡、無病息災、雨乞い祭り、里芋の葉、夜露で墨をする、神事の結界、魔よけの飾り、流し雛		
実例・記録	 <p>駅に掲げられたバナー</p>	 <p>駅前から七夕通り商店街にかけて飾り付けが続く</p>	
備考	狭山市のサイト https://www.city.sayama.saitama.jp/kankou/kanko/tanabata/index.html を参考		

七夕データベース構築のための情報カード

		追記
名称	西小磯の七夕	国と県の無形民俗文化財。
都道府県名	神奈川県	
取材・開催地住所1	大磯町	
取材・開催地住所2	西小磯	西小磯はさらに東地区と西地区に分かれ、取材したのは西地区である。
取材・開催地住所3	西小磯地区	東地区では西小磯東七夕保存会、西小磯西こども育成会が中心となって行われる。
開催日・期間	8月6/7日前後の週末	東地区は従来通り8月6/7日の日にち固定。
取材日	2018年8月18・19日	
分類	ムラ、竹神輿系	
内容	<p>西小磯の西地区の七夕では、初日に竹飾りを地面に叩きつけながら道祖神をめぐる。その後、家々をめぐり七夕踊りをする。夕方になると、竹神輿を担いで町内を回る。辻では電柱に神輿を勢いよくぶつける「ケンカ」を行う。翌朝早くに神輿を担いで浜辺へ持っていき、高速道路わきの草むらに安置する。昔は海に流していたというが、環境への配慮から、正月のどんど焼きの際と一緒に燃やす。かつて村に悪い病気が流行ったため、疫病神をお祓いしたのが始まりと言われている。盆のオショロサン（祖先の霊）を迎えるために村中を浄める意味合いや、竹神輿は龍の形を表しており、雨乞いを兼ねているのだとも言われている。東地区は保存会が行事の保存を目的としているので日にちも昔と同じに固定をしているが、西地区は祭りの運営主体となる父母の仕事 considering 週末に日程を設定しているという。</p>	
キーワード	<p>神奈川県、大磯町、西小磯、西地区、東地区、西小磯の七夕、道祖神、七夕踊り、竹神輿、ケンカ、疫病神、お祓い、オショロサン（祖先の霊）、浄める、龍、雨乞い</p>	
実例・記録	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>竹神輿を担いで町内を巡る</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>かつては神輿どうして行っていたケンカ</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>翌朝、七夕宿の公民館にて</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="text-align: center;">  <p>浜辺へと竹神輿を運ぶ</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>こゆるぎの浜に到着</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>正月を待つ竹神輿</p> </div> </div>	
備考	<p>大磯町の観光サイト http://www.town.oiso.kanagawa.jp/isotabi/matsuri_event/matsuri/nishikoisotanabata.html 大磯町郷土資料館のサイト http://scn-net.easymyweb.jp/member/oisomuseum/default.asp?c_id=188116</p>	

七夕データベース構築のための情報カード

		追記
名称	星田妙見宮の七夕祭	2020年はコロナ禍により、規模を縮小して、神職関係者のみで神事が行われた。
都道府県名	大阪府	
取材・開催地住所1	交野市	
取材・開催地住所2	星田9丁目60-1	この地には星降伝説がある。平安時代初期、市の南側にある獅子窟寺に弘法大師がこもっていた時に、星田の三か所に北斗七星が降った。その三か所の距離がそれぞれ八丁（約900m）離れていたため、「八丁三所（はっちょうさんところ）」と呼ばれるようになったという。その三か所とは、星田妙見宮、星の森之宮、光林寺である。
取材・開催地住所3	星田妙見宮	
開催日・期間	7月6日、7日	
取材日	2019年7月6日	6日の夜は露店が出る。祭り本番は7日。
分類	星祭り、寺社系、妙見信仰	
内容	七夕は古くからの当宮の星祭りであり、天地の恵み・御先祖の恵みに感謝し厄除開運をお願いする。享和元年(1801)の『河内名所図絵』には「妙見祠 妙見山にあり。神跡巨石三箇、鼎の如く岐ちて丘の如し。前に石の鳥井、拜殿、玉垣、石段あり、土人、織女石とも呼ぶ。」とある。織女石とは七夕の織姫を祀る石。江戸時代初期の儒学・本草学者として著名な貝原益軒の紀行文『南遊紀行』にも「此谷のおくに星の森有。星の社あり。其神は牽牛織女也。」との記載あり。この交野ヶ原には古来より天女が舞い降りたとされる羽衣伝説や七夕伝説がある。平安時代の『伊勢物語』、『古今和歌集』などにも交野ヶ原の七夕に関する記述があり、古くから貴族の間で七夕ゆかりの場所として知られていた。特に星田妙見宮は、交野ヶ原の北辰(北極星、北斗七星)祭祀の霊場である。元々、七夕は北辰信仰から生まれた祭祀であり、磐座(信仰の対象となる岩)も古来より織女石と呼ばれるように、七夕は妙見宮の信仰においてとても深いゆかりがあった。	
キーワード	大阪府、交野市、星田、星田妙見宮、星田妙見宮の七夕祭、星祭り、厄除開運、『河内名所図絵』七夕伝説、『伊勢物語』、『古今和歌集』、北辰祭祀、北辰信仰、星降伝説、八丁三所（はっちょうさんところ）、星の森之宮、光林寺	
実例・記録	 <p>境内入り口の飾り</p>  <p>磐座である織姫石</p>	 <p>境内に掲げられた交野ヶ原の七夕伝説</p>
備考	解説は星田妙見宮のサイトを要約 https://www.hoshida-myoken.com/ このあたり一帯の区域的な七夕伝説は、さらに掘り下げて調べる価値はありそう。	

七夕データベース構築のための情報カード

		追記
名称	機物神社の七夕まつり	2020年はコロナ禍のために中止。
都道府県名	大阪府	
取材・開催地住所1	交野市	
取材・開催地住所2	倉治1丁目1-7	
取材・開催地住所3	機物神社	祭神は天棚機比売大神（あまのたなばたひめ）
開催日・期間	7月6日、7日	
取材日	2019年7月6日	
分類	星祭り、寺社系	
内容	<p>一説によると、古代、枚方市「津田」を「秦田（はただ）」、交野市の「寺」を「秦山（はたやま）」、「倉治（くらじ）」を「秦者（はたもの）」といていた時代があった。神社の名称はこの「秦者」の人たちが祀る社ということで、「ハタモノの社」が本来の呼び名であったと思われるが、後に七夕伝説と結び付けられて、「秦」の機織りの「機」に換えて現在の機物神社のイメージ作りが行われたといわれている。起源は古く四～五世紀にあるとも考えられるが、五～六世紀の頃に秦氏に代表される交易商人によって組織された養蚕布織の技術を持った民が大陸から渡来して、一部の集団が東部産地の麓に定住した時といわれている。祭神の起源は、農耕・産業を司るのが本来のありさまで、後世になって七夕伝説と結びついて、手芸・学問の神としても尊ばれるようになり現在に至った。祭りは1979（昭和54）年に例祭として復活した。6日が宵宮、7日が本宮で、22:30から短冊が天野川に流される。</p>	
キーワード	大阪府、交野市、倉治、機物神社、機物神社の七夕まつり、天棚機比売大神（あまのたなばたひめ）、秦者、秦氏、養蚕布織の技術、渡来人	
実例・記録	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>祭りを告げる幟</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>天棚機比売大神</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>本殿前の七夕飾り</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="text-align: center;">  <p>茅の輪くぐりも行われている</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>紀貫之の歌碑</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>七夕サミット記念碑</p> </div> </div>	
備考	解説は機物神社サイトより要約 http://hatamono.web.fc2.com/index.html	

七夕データベース構築のための情報カード

		追 記
名称	高台寺 七夕会	2020年はコロナ禍のために境内およびインターネットでの願いごと受付は休止。行事そのものは行われた。
都道府県名	京都府	
取材・開催地住所 1	京都市	
取材・開催地住所 2	東山区下河原町 5 2 6	
取材・開催地住所 3	高台寺	
開催日・期間	7月の第一土日	
取材日	2019年7月6日	
分類	新形態、観光集客	
内容	高台寺は、豊臣秀吉の正室である北政所が晩年を過ごしたところであり、「ねねの寺」として知られる建仁寺派の寺院である。この七夕行事は、古くからの伝統行事ではなく、夏の夜間公開に合わせて行われているイベント。幼稚園児が書いた短冊をはじめ、全国から応募された短冊を二十数本の巨大な笹竹に飾る。日没からは笹と庭園をライトアップする。高台寺門前の高台寺天満宮の周辺にも七夕笹飾りが施される。	
キーワード	京都府、東山区、高台寺、高台寺七夕会、夜間公開、ライトアップ、高台寺天満宮	
実例・記録	<div style="display: flex; justify-content: space-around;">  </div> <p style="text-align: center;">全国からの短冊が飾られている</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">  </div> <p style="text-align: center;">ライトアップされた七夕飾り</p>	
備考		

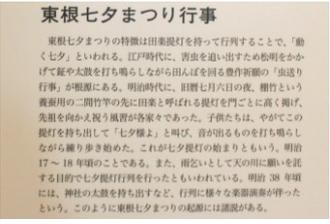
七夕データベース構築のための情報カード

		追記
名称	白峯神宮の精大明神祭「七夕祭」	2020年はコロナ禍のために「蹴鞠神事奉納」と「小町をどり奉納」は中止。
都道府県名	京都府	
取材・開催地住所 1	京都市	
取材・開催地住所 2	上京区飛鳥井町2 6 1	
取材・開催地住所 3	白峯神宮	白峯神宮の創建は1868年と近代である。神宮が建てられたのは和歌・蹴鞠の公卿宗家「飛鳥井家」の邸宅地跡であり、同家が代々守護神としてきた「まり」の守護神である「精大明神」が祀られている。
開催日・期間	7月7日	蹴鞠奉納が13:30から、小町をどりが16時から
取材日	2019年7月7日	
分類	星祭り、寺社系、宮廷文化	
内容	七夕祭は精大明神が七夕の祭神であるとされていることに由来し、蹴鞠や小町をどりが奉納される。蹴鞠奉納は、蹴鞠の実演だけでなく、歴史や蹴鞠のルールなどが解説され参詣者も参加ができる。蹴鞠は中国から古来に伝えられたものとされ、宮中において長らく行われてきた七夕同様の宮廷の貴族文化であったが、明治維新以後に一旦途絶えた。1903年に保存会が結成され、七夕祭りの日に奉納をされている。小町をどりは、もともとは、宮中における乞功羹の際に、公卿等が詠んだ和歌を届ける文使い（ふみづかい）のお供をしていた娘たちが、その道中で歌い舞った踊りが起源となっているという。その後、庶民の間で七夕の風習として広まり、この地域では西陣に近いこともあり、元禄の頃に西陣織の着物を着飾って、街々を歌い踊り歩いたのが始まりであるとされている。明治に途絶えたが昭和37年に復活し、神宮が毎年踊り手を公募している。	
キーワード	京都市、上京区、白峯神宮、白峯神宮の精大明神祭「七夕祭」、精大明神、七夕の祭神、蹴鞠奉納、貴族文化、小町をどり、乞功羹、文使い（ふみづかい）、西陣	
実例・記録	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>飾り付けられた境内</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>蹴鞠奉納の様子</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>小町をどり</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="text-align: center;">  <p>牽牛</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>織姫</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>小町をどり</p> </div> </div>	
備考	公式サイト http://shiraminejingu.or.jp/event/tanabata/	

七夕データベース構築のための情報カード

		追記
名称	宝立七夕キリコ祭り	2020年はコロナ禍のために中止。
都道府県名	石川県	
取材・開催地住所 1	珠洲市	
取材・開催地住所 2	宝立町鵜飼	地区には空海ゆかりの見附島がある。
取材・開催地住所 3	鵜飼川河口	
開催日・期間	8月第一土曜	2018年までは8月7日に行われていたが、2019年から8月の第一土曜日に変更。
取材日	2019年8月3日	
分類	ムラ、ねぶた系、灯籠	
内容	<p>七日盆に行われる祖霊迎えの行事の色を今に伝えている。1433年に市内の妙巖寺が現在地に建立されたことが起源とされている。キリコは切籠灯籠のことで、能登各地で夏から秋にかけて行われる祭りにおいて、神輿のお供として氏子たちが担いで練り歩く。宝立の場合は、そうした他の能登のキリコとは異なり、神社の行事とは関係なくキリコが中心となったお祭りであるという独自性がある。祭りが始まると、市内の各地区の大型のキリコ（高さがおよそ14mほど）6基と子供キリコ（およそ6m）1基が動き出して夕暮れ時に一度集合し、鵜飼川沿いに一列に並ぶ。そのあと川を渡った鵜飼漁港にて乱舞をし、今度は見附海岸へと集合する。22時頃、花火を合図に海の中へとキリコを担ぎ出し、松明の周りを乱舞する。キリコが浜辺に引き上げられて、各々の地区へと帰りだすのは日が変わるころである。</p>	
キーワード	石川県、珠洲市、宝立町、鵜飼川河口、宝立七夕キリコ祭り、七日盆、祖霊迎え、妙巖寺、キリコ、切籠灯籠、能登、鵜飼漁港、乱舞、見附海岸、海中乱舞	
実例・記録	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>各地区ごとに趣向を凝らしたキリコ</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>祭りの始まりを待つ</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>河口に並んだ大キリコ</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="text-align: center;">  <p>漁港への巡行</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>漁港での乱舞</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>花火を背景に海中乱舞</p> </div> </div>	
備考	<p>能登のキリコ祭り https://www.hot-ishikawa.jp/kiriko/jp/kiriko/houryu.php ※能登半島各地のキリコ祭りの情報がよくまとまっている。</p>	

七夕データベース構築のための情報カード

		追記
名称	動く七夕提灯行列	2020年はコロナ禍のために中止。
都道府県名	山形県	
取材・開催地住所 1	東根市	東の杜資料館が改修されて現在の施設となった東の杜（東根市本丸東3-1）にある、旧家の酒造を活用した歴史資料館では、「ひがしね祭り」のビデオと七夕について一枚のパネルが展示、祭りのビデオが上映されている。
取材・開催地住所 2		
取材・開催地住所 3	本町通～市役所前	
開催日・期間	8月10日	ひがしね祭りの一環であり、祭り自体は11日も開催
取材日	2019年8月10日	
分類	ムラ、提灯行列	
内容	毎年8月10日の「ひがしね祭」のメインの行事として行われている。18:30に提灯行列がスタート。2019年は51の団体が参加していた。21時からは市内7地区の子供たちが扮した織姫と彦星によるステージショーが行われ、当日の祭りは幕を閉じる。七夕提灯行列は江戸末期から明治初期が起源とされる。七夕の夜に五穀豊穡や家内安全などの願い事を箱型の「田楽提灯」に書いて家に立てていたところ、子供が持ち出して歩き回ったのが始まりらしい。雨不足の折に雨ごいをしながら提灯行列をしたところ、雨が降ったという。1967年に一度行われなくなったが、地域の保存会が中心となって1972年に復活した。今は、お祭りの一環としての要素が濃いように見受けられた。提灯も願い事というよりは、流行りのアニメキャラクターがデザインされているものなどが多かった。	
キーワード	山形県、東根市、動く七夕提灯行列、ひがしね祭、提灯行列、五穀豊穡、家内安全、田楽提灯、雨ごい、東の杜	
実例・記録	 <p>行列を先導する地区の車</p>  <p>提灯行列。囃子歌を歌いながら行進をする。</p> 	 <p>ステージショー</p>  <p>地区の名前が入った田楽提灯</p>  <p>東の杜の解説パネル</p>
備考		

七夕データベース構築のための情報カード

		追 記
名称	南アルプス市の七夕人形	
都道府県名	山形県	
取材・開催地住所 1	南アルプス市	二か所を訪問した結果をまとめて記載するためにこちらに住所を記載。 ・ふるさと文化伝承館（南アルプス市野牛島2727）：旧八田村エリアにある。主に縄文期の土器や土偶、地域の治水事業の歴史などを展示。七夕人形の調査も進められている。 ・安藤家住宅（南アルプス市西南湖4302）：旧櫛形町エリアにある国指定重要文化財。江戸時代の名主の家が当時の姿で保存されている。新暦で七夕飾りをしている。
取材・開催地住所 2	右欄参照	
取材・開催地住所 3	右欄参照	
開催日・期間		両館とも新暦の7月7日あたりの期間で七夕飾りなどを行っている。
取材日	2020年7月5日	
分類	ムラ、人形系、お守り	
内容	甲府盆地には男女一対の星神様の人形を飾る七夕人形文化がある。先行研究（本カード「オルスイさん20140705」も参照）では、主に笛吹川流域という東部での調査事例が報告されている。七夕が終わると畑の虫除けや、オルスイさんとして泥棒除けになる。こちらは、裾が長いのが特徴的である。盆地西部の釜無川流域、主に南アルプス市内の七夕人形は袖が長いという特徴がある。ふるさと文化伝承館によると、名称は東部と同じように「オルスイさん」であり、蔵などにしまわれているものが発見されているという。同館では、新暦の七夕に合わせて、東部の七夕人形を再現した制作キットを配布し、七夕飾りにもその人形を飾っている。安藤家住宅では例年、新暦の七夕頃に七夕の節句を行っており、七夕人形が飾られている。だが、この人形はもともと同住宅に関係するものではなく、文化財課より南アルプス市に伝わる七夕人形を飾ってもらいたいとの依頼があって飾っているとのことで、詳しいことは同課に照会をしてほしいとの事だった。	
キーワード	南アルプス市、七夕人形、ふるさと文化伝承館、安藤家住宅、星神様、笛吹川流域、虫除け、オルスイさん、泥棒除け、裾が長い、釜無川流域、袖が長い	
実例・記録	 <p style="text-align: center;">ふるさと文化伝承館</p>	 <p style="text-align: center;">飾られている七夕人形</p>
	 <p style="text-align: center;">安藤家住宅</p>	 <p style="text-align: center;">とても裾が長い七夕人形</p>
備考		

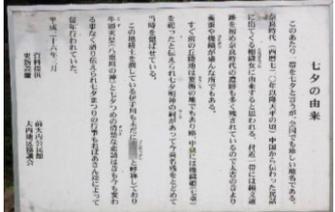
七夕データベース構築のための情報カード

		追記
名称	まつもとの七夕	2020年はコロナ禍の中でも行われた。
都道府県名	長野県	
取材・開催地住所 1	松本市	七夕人形の代表的土地である松本では、毎年「まつもとの七夕」と称し、商店街などの市内各所で人形を飾ったり、制作を体験できるイベントを行っている。訪問したのは四か所。 ・松本市はかり資料館（松本市中央3-4） ・松本市立博物館（松本市丸の内4-1） ・松本市歴史の里（松本市大字島立2196-1） ・窪田空穂生家（松本市大字和田1715-1） ※馬場家住宅（松本市内田357-6）、安曇資料館（松本市安曇3480番地2）でも行われた。
取材・開催地住所 2	右欄参照	
取材・開催地住所 3	右欄参照	
開催日・期間	7月上旬～8月上旬	年により期間が異なるが、月暮れの8月7日を含むように行われる。
取材日	2020年7月11・12日	
分類	その他、博物館	
内容	まつもとの七夕では、月遅れの七夕・まちなか展示が開かれる。商店街に七夕人形が飾られたり、市全体をまるごと博物館に見立てた活動として、七夕期間中は市内博物館と連携して松本市の伝統的な七夕文化を発信している。 ・松本市はかり資料館：縁側に七夕人形を飾り、松本の七夕を紹介するパネルを展示。七夕人形制作体験もできた。 ・松本市立博物館：常設展示に加えて、人形制作体験や、ほうとうのサービスがある。 ・松本市歴史の里：旧昭和興業製糸場で人形制作体験、木下尚江生家で人形の飾りが行われていた。 コロナ禍ということで、6館で「けがれ」や「厄」を移された人形を集め、川に流して祓う行事「七夕人形流し」が8日、歴史の里で行われた。まつもとの七夕では初の試みである。	
キーワード	長野県、松本市、まつもとの七夕、松本市はかり資料館、松本市立博物館、松本市歴史の里、窪田空穂生家、馬場家住宅、安曇資料館、月遅れの七夕・まちなか展示、まるごと博物館、七夕人形流し	
実例・記録	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>松本市はかり資料館</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>松本市立博物館</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>松本市歴史の里</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="text-align: center;">  <p>窪田空穂生家</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>七夕人形流しのための人型</p> </div> </div>	
備考		

七夕データベース構築のための情報カード

		追記
名称	釜井庵七夕飾り	
都道府県名	長野県	
取材・開催地住所1	塩尻市	
取材・開催地住所2	大字洗馬2323-1	
取材・開催地住所3	本洗馬歴史の里資料館 釜井庵	
開催日・期間	7月7日～8月7日あたり	
分類	2020年7月11日	
ジャンル	その他、博物館	
内容	釜井庵は、菅江真澄（すがえますみ）が1783年に長野県内各地を旅した時に訪れ一年余りを過ごした場所。「委寧乃中路（いななかみち）」を著し、その中には、釜井庵で七夕人形が飾られている様子が描かれている。このことから、江戸の後期にあって、松本周辺では七夕人形の風習があったことが文献上わかる。その七夕飾りが再現されている。2020年は彼の没後190年ということで、企画展示も催されていた。七夕に関連して、彼が書き留めた「七夕ささら踊り」が、かつては地域の夏祭りで行われ、今は、小学校の運動会での催しに引き継がれていることを知った。伝統的な行事が形を変えて、地域で行け継がれている例である。	
キーワード	長野県、塩尻市、洗馬、本洗馬歴史の里資料館、釜井庵、釜井庵七夕飾り、菅江真澄（すがえますみ）、『委寧乃中路（いななかみち）』、七夕ささら踊り	
実例・記録	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>釜井庵の七夕飾り</p> </div> <div style="text-align: center;">  </div> <div style="text-align: center;">  <p>委寧乃中路の挿絵</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="text-align: center;">  </div> <div style="text-align: center;">  <p>七夕の供え物</p> </div> </div>	
備考	本洗馬歴史の里資料館 のサイト http://www.city.shiojiri.lg.jp/tanoshimu/hakubutukan/motosebarekisinatosato/index.html	

七夕データベース構築のための情報カード

		追記	
名称	七夕という地名		
都道府県名	宮城県		
取材・開催地住所 1	丸森町	同町内にある、七夕という地名と、その周囲にある七夕伝説のある神社二社を訪ねた。 ・七夕バス停（丸森町大内七夕） ・七夕神社（伊具郡丸森町大内字七夕77） ※民家の敷地にあり、畑の脇を抜けていく。見学する旨の断りを入れると良い。 ・八重垣神社（伊具郡丸森町大内宮下字梅ヶ作5）	
取材・開催地住所 2	右欄参照		
取材・開催地住所 3	右欄参照		
開催日・期間	7月7日	神社を巡るバスツアーが最近は行われている。七夕神社も七夕には飾り付けられる。	
取材日	2020年8月1日		
分類	その他、ランドスケープ		
内容	七夕という地名が県の南部、福島県境近くの丸森町にある。そこには七夕神社がある。600年ほど昔、地元の子七重という美しい娘の悲恋を知った村人が、娘を機織りの神として祀った神社である。以前訪問した時には、それほど七夕神社が地元でも注目されておらず、神社そのものを見つけることができていなかった。今では毎年七夕の時期に、織物体験と合わせて、神社を訪問するツアーが組まれるほどになっている。七夕神社の北、500mほどのところを伊手川という川が流れる。伊手川は天王川とも呼ばれていて、天の川のことを指している。川の北岸に接した高台には、牽牛の言い伝えのある八重垣神社がある。神社の別名は、天王社（牛頭天皇）と称される。七夕神社から見ると、八重垣神社は川を挟んで北東の方角に位置している。織女と牽牛そして天の川が、それぞれ、七夕神社、八重垣神社、伊手川に対応する。スカイスケープが、写し絵としてランドスケープとして展開されているのは興味深い。		
キーワード	宮城県、丸森町、大内、七夕（地名）、バス停、七夕神社、八重垣神社、天王社（牛頭天皇）、七重、機織りの神、伊手川（天王川）		
実例・記録	 <p>七夕バス停</p>	 <p>この地の七夕伝説</p>	 <p>七夕地名の由来</p>
備考	 <p>七夕神社</p>	 <p>八重垣神社</p>	 <p>伊手川</p>

七夕データベース構築のための情報カード

		追記
名称	仙台七夕まつり（博物館展示）	
都道府県名	宮城県	
取材・開催地住所 1	仙台市	今回は三か所の博物館を訪ねた。 ・仙台市歴史民俗資料館（宮城野区五輪1-3-7）：旧陸軍歩兵第四連隊の兵舎を移築したもの。仙台七夕まつりの変遷を、大正から昭和にかけての写真で綴る季節展を開催。 ・仙台市博物館（青葉区国分町3-7-1）：仙台伊達家から寄贈された資料を中心に、支倉常長や仙台藩の天文に関する展示などがある。仙台七夕まつりの紙衣も収蔵している。 ・七夕ミュージアム（若林区鶴代町6-65）：笹かまぼこを製造する会社が作った、日本初の七夕飾りを常設展示するミュージアム。七夕まつりの歴史や飾りの変遷などがわかる。
取材・開催地住所 2	右欄参照	
取材・開催地住所 3	右欄参照	
開催日・期間	企画展は七夕時期	常設展示もある。
取材日	2020年8月1日／2日	
分類	その他、博物館	
内容	歴史民俗資料館では季節展示「仙台七夕と盆」を開催。絵ハガキやポスター、それから宮城、福島などの七夕馬を展示。盆に関しては、盆棚が再現されており、姫路の七夕棚に似ている印象を受けた。七夕人形の要素に、ムラの境において邪悪なものからムラを守る存在があるが、同時開催されていた「わらと生活」展において、似たような習俗が紹介されていた。七夕と結びつく前の古来からの行事の姿なのかもしれない。仙台市博物館では、七つ飾りの一つである大正時代の着物が展示の一角を形成。紙製や布製の物、産着や振袖など種類がある。着物には「裁縫の上達」「病や災いの身代わり」の二つの意味合いがある。前者は中国伝来の乞巧奠に、後者はケガレを祓う形代に由来するとみる先行研究もある。民間企業の七夕ミュージアムでは、その企業が出展してきた飾りや、絵ハガキ、ポスターなども掲示されて、仙台七夕の歴史を気軽に見ることができるようになっていた。市民が、自分たちのものとしての誇りを持っているのが伝わってくる。	
キーワード	宮城県、仙台市、仙台七夕まつり、仙台市歴史民俗資料館、仙台市博物館、紙衣、七夕ミュージアム、七つ飾り、裁縫の上達、病や災いの身代わり、乞巧奠、ケガレを祓う、形代	
実例・記録	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>仙台市歴史民俗資料館の飾り</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>同で展示の盆だな</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>仙台市博物館の七夕人形</p> </div> </div> <div style="text-align: center; margin-top: 10px;">  <p>七夕ミュージアムの展示</p> </div>	
備考	仙台市歴史民俗資料館 http://www.sendai-c.ed.jp/~bunkazai/~rekimin/ 仙台市博物館 https://www.city.sendai.jp/museum/ 七夕ミュージアム https://www.kanezaki.co.jp/shop/belle_factory/tanabata_museum.html	